

令和7年度 松山市 市民意識調査（概要版）

令和8(2026)年3月

■ 調査目的

第7次松山市総合計画に掲げた各政策の進捗に対する市民の実感や現状等を把握するため、市民に対する意識調査を実施し、計画的かつ効率的な進行管理を図るための基礎資料とする。

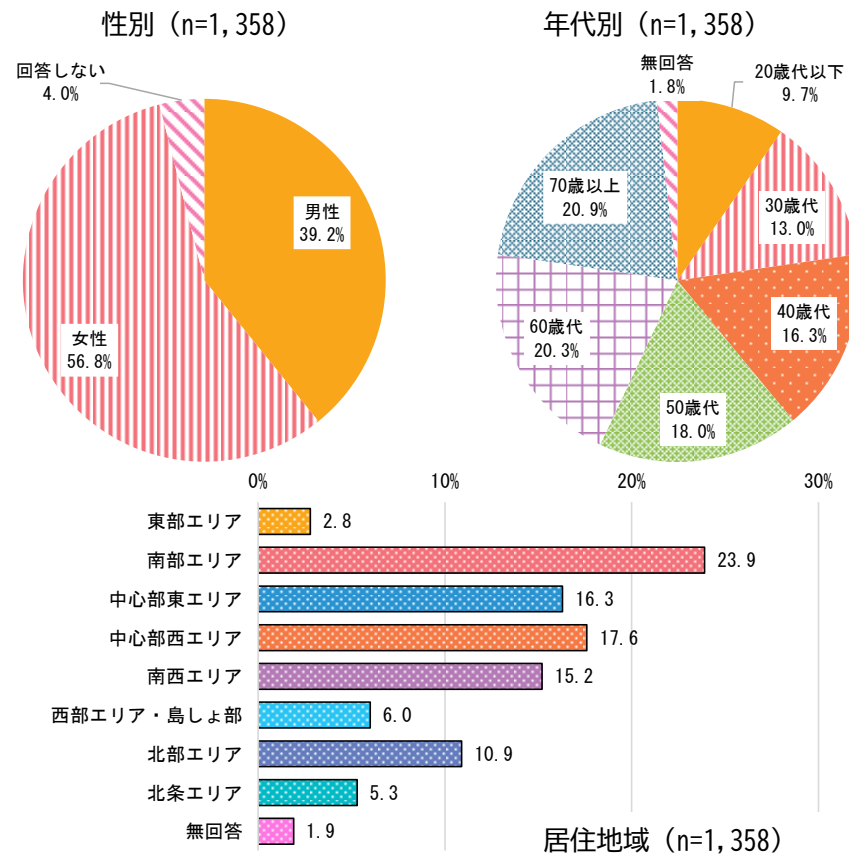
■ 調査設計

- (1) 調査方法
郵送調査（郵送配付、郵送・インターネット回答）
- (2) 調査期間
令和8年1月5日（月）～1月23日（金）
- (3) 調査対象者
18歳以上の市民2,500人
- (4) 抽出方法
住民基本台帳から無作為抽出

■ 有効回答数

対象者数	回収種別	回収数	回収率
2,500件	全体	1,358件	54.3%
	うち郵送回収	668件	49.2%
	うちインターネット回収	690件	50.8%

■ 回答者の属性





分野別の要点（全体結果）

※『』は2項目を合計した指標を示す。



こども・教育

- ・『子育てしてよかったと思う』市民の割合は 93.9%

福祉



- ・『地域や社会とのつながりを感じている』市民の割合は 65.7%
- ・「生きがいを感じる活動や社会活動等に参加している」高齢者の割合は 40.8%
- ・「民生・児童委員制度を知っている」市民の割合は 20.5%

健康・医療



- ・『医療体制が充実していると思う』市民の割合は 82.4%
- ・「生活習慣病予防を意識した運動・食生活などを6か月以上継続している」市民の割合は 43.5%

共生・コミュニティ



- ・地域に『愛着や誇りを感じている』市民の割合は 78.4%
- ・住んでいる地域の『地域活動が盛んだと思う』市民の割合は 65.4%
- ・「地域活動に参加している」市民の割合は 32.3%
- ・『文化芸術活動を行っている』市民の割合は 31.2%
- ・『『坂の上の雲』のまちづくりを知っている』市民の割合は 69.9%

都市の魅力



- ・『松山市の魅力を友人や知人に紹介したいと思う』市民の割合は 71.7%
- ・『松山市を文化的なまちだと思う』市民の割合は 82.1%
- ・『「幸せになろう。」を見たり聞いたりしたことがある』市民の割合は 45.8%
- ・『「幸せになろう。」の内容に共感できる』市民の割合は 75.2%



経済・産業

- ・現在の職場が『働きやすいと思う』市民の割合は 77.4%
- ・現在非正規雇用で、今後『正規雇用で働きたい』市民の割合は 38.1%

交通



- ・気軽に目的地へ『移動しやすいと思う』市民の割合は 66.3%
- ・松山市は『公共交通の便利なまちだと思う』市民の割合は 42.9%

都市空間



- ・松山市は『住みやすいと思う』市民の割合は 91.9%
- ・今後も松山市に『住み続けたいと思う』市民の割合は 81.9%

環境



- ・『環境にやさしい行動をしていると思う』市民の割合は 81.1%

安全・安心



- ・『日頃から災害に備えていると思う』市民の割合は 55.9%
- ・『日頃から災害に備えていると思わない』市民の割合は 43.8%
- ・「家庭内備蓄をしている」市民の割合は 72.5%
- ・「家具固定をしている」市民の割合は 32.1%

連携



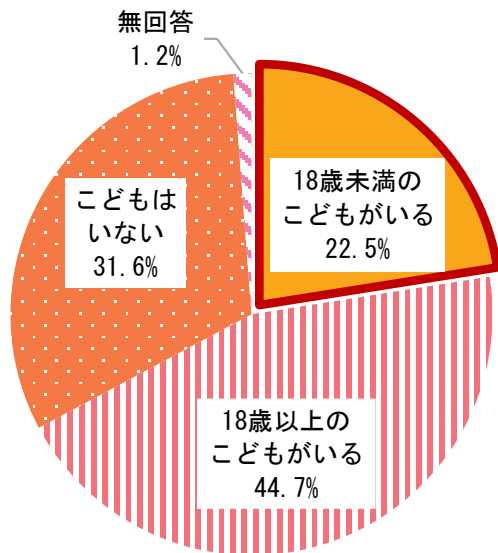
- ・『デジタル化で生活が便利になったと思う』市民の割合は 75.0%
- ・『SDGsについて知っている』市民の割合は 83.3%

こどもの状況

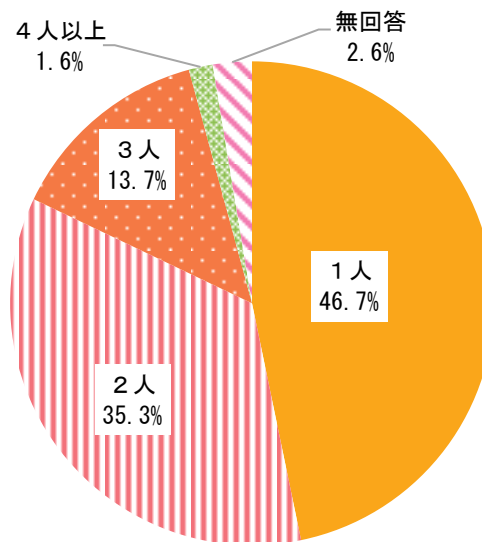
『こどもがいる』（「18歳未満のこどもがいる」と「18歳以上のこどもがいる」の合計）市民の割合は67.2%。
うち、「18歳未満のこどもがいる」市民の割合は、22.5%となっている。

18歳未満のこどものうち、その人数は「1人」（46.7%）が最多となり、こどもの年齢は「中学生以上」（46.7%）が最も高くなっている。

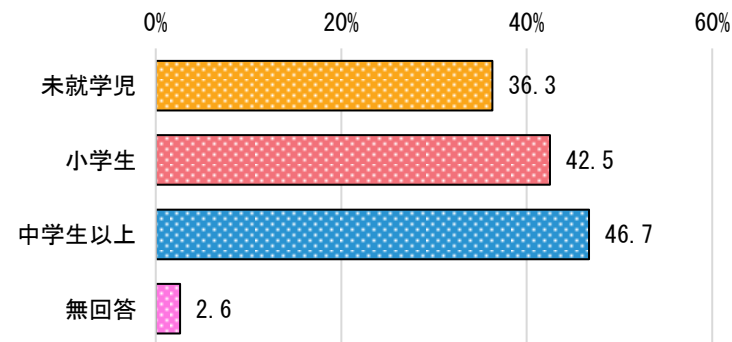
【問6】 こどもの有無（n=1,358）
単一回答



【問7】 こどもの人数（n=306）
単一回答



【問7】 こどもの年齢（n=306）
複数回答

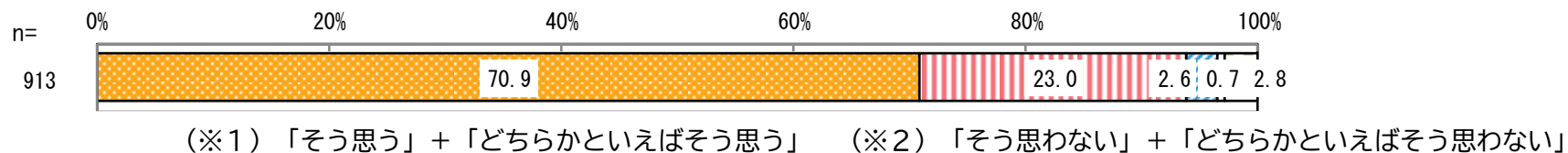
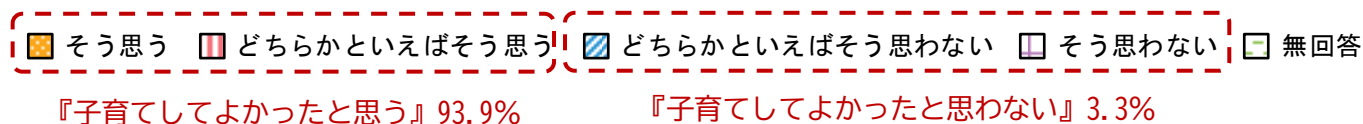


【問7】は【問6】で「18歳未満のこどもがいる」と回答した方を対象とした設問

<「18歳未満のこどもがいる」又は「18歳以上のこどもがいる」とお答えの方のみ>

問9 あなたは「子育てしてよかった」と思うか。（単一回答）

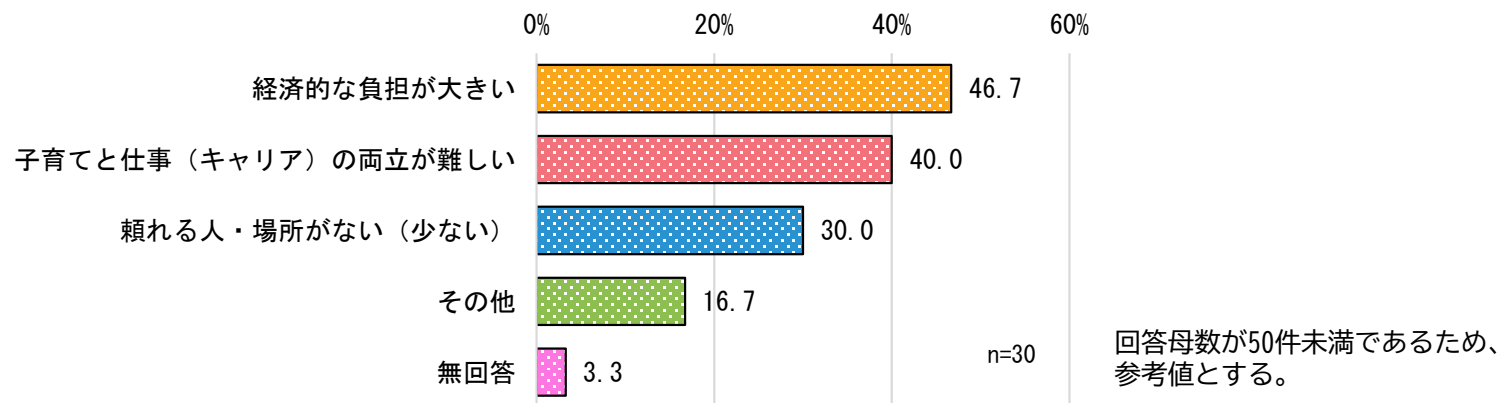
『子育てしてよかったと思う』（※1）市民の割合は93.9%で、令和6年度の95.6%より1.7ポイント減少した。
『子育てしてよかったと思わない』（※2）市民の割合は3.3%で、令和6年度の3.7%と同程度となった。



<問9で「どちらかといえばそう思わない」又は「そう思わない」とお答えの方のみ>

問10 「子育てしてよかった」と思わない理由（複数回答）

「経済的な負担が大きい」が46.7%で最も高く、次いで「子育てと仕事（キャリア）の両立が難しい」（40.0%）、「頼れる人・場所がない（少ない）」（30.0%）の順となっている。

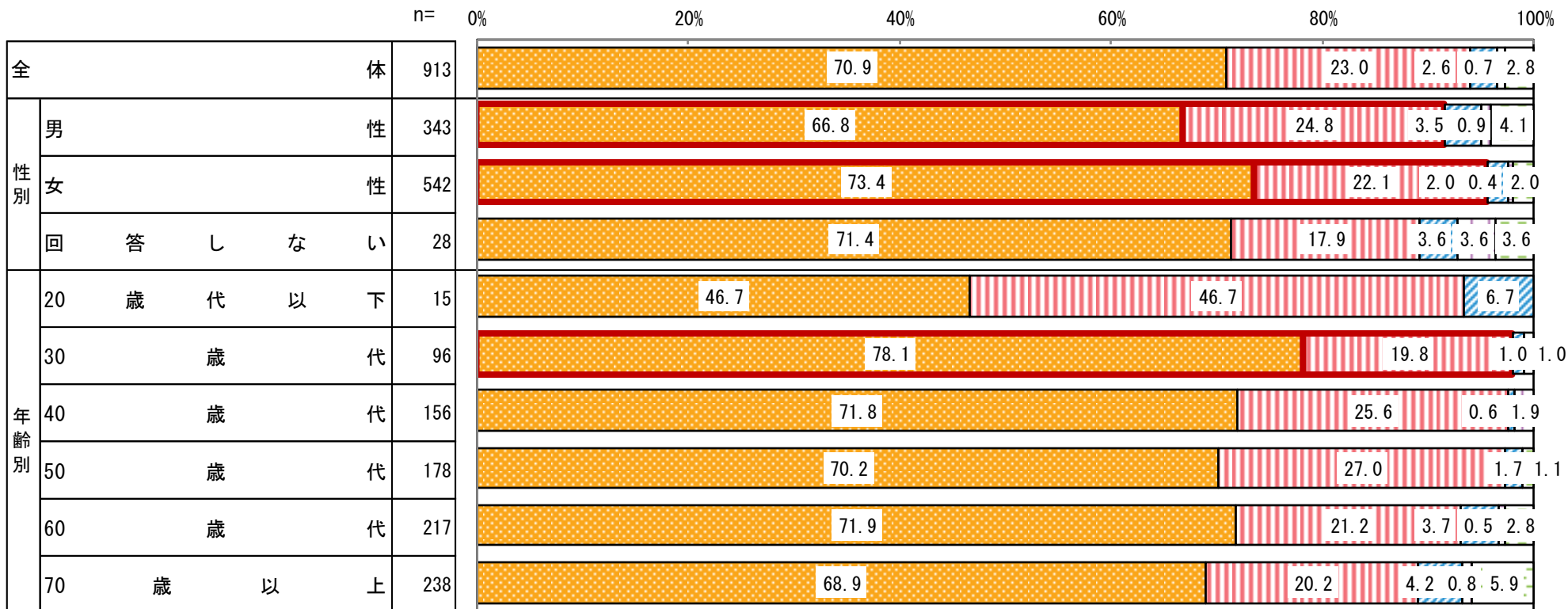


問9 『子育てしてよかったと思う』性別／年齢別結果

『子育てしてよかったと思う』市民の割合は、性別では、[男性]（91.6%）、[女性]（95.5%）で[女性]が全体値（93.9%）を上回る結果となっている。

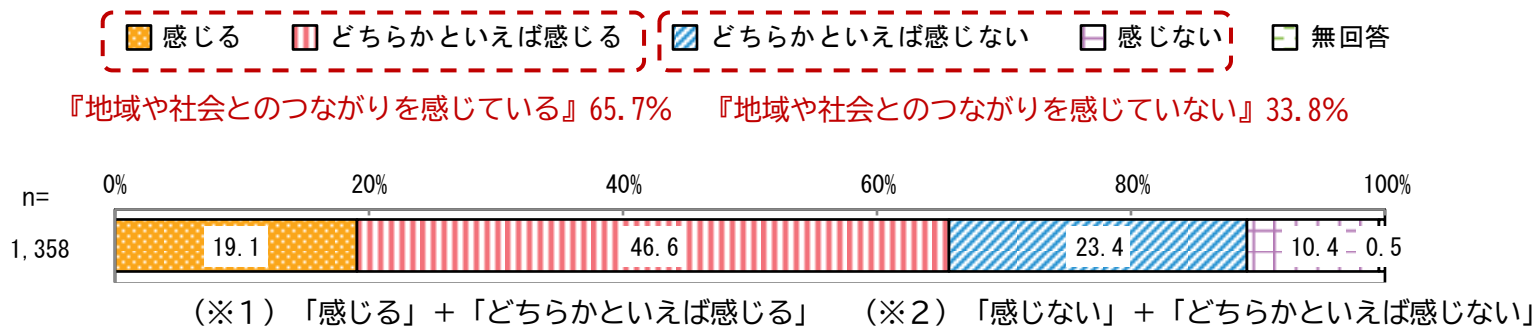
年齢別では、[30歳代]（97.9%）が最も高く全体値を4.0ポイント上回る。

■ そう思う
■ どちらかといえばそう思う
■ どちらかといえばそう思わない
■ そう思わない
■ 無回答



問11 「地域や社会とのつながり」を感じるか（単一回答）

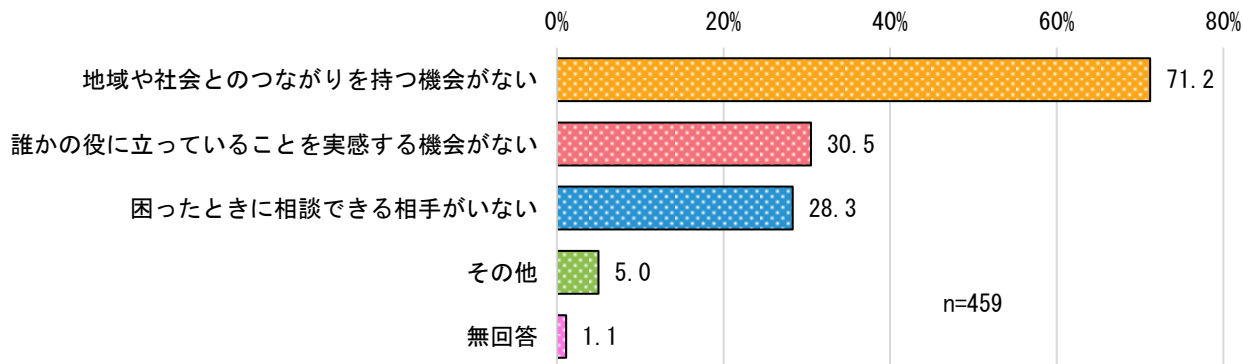
『地域や社会とのつながりを感じている』（※1）市民の割合は65.7%で、令和6年度の62.0%より3.7ポイント増加した。
『地域や社会とのつながりを感じていない』（※2）市民の割合は33.8%で、令和6年度の37.9%より4.1ポイント減少した。



<問11で「どちらかといえば感じない」又は「感じない」とお答えの方のみ>

問12 「地域や社会とのつながり」を感じない（感じにくい）理由（複数回答）

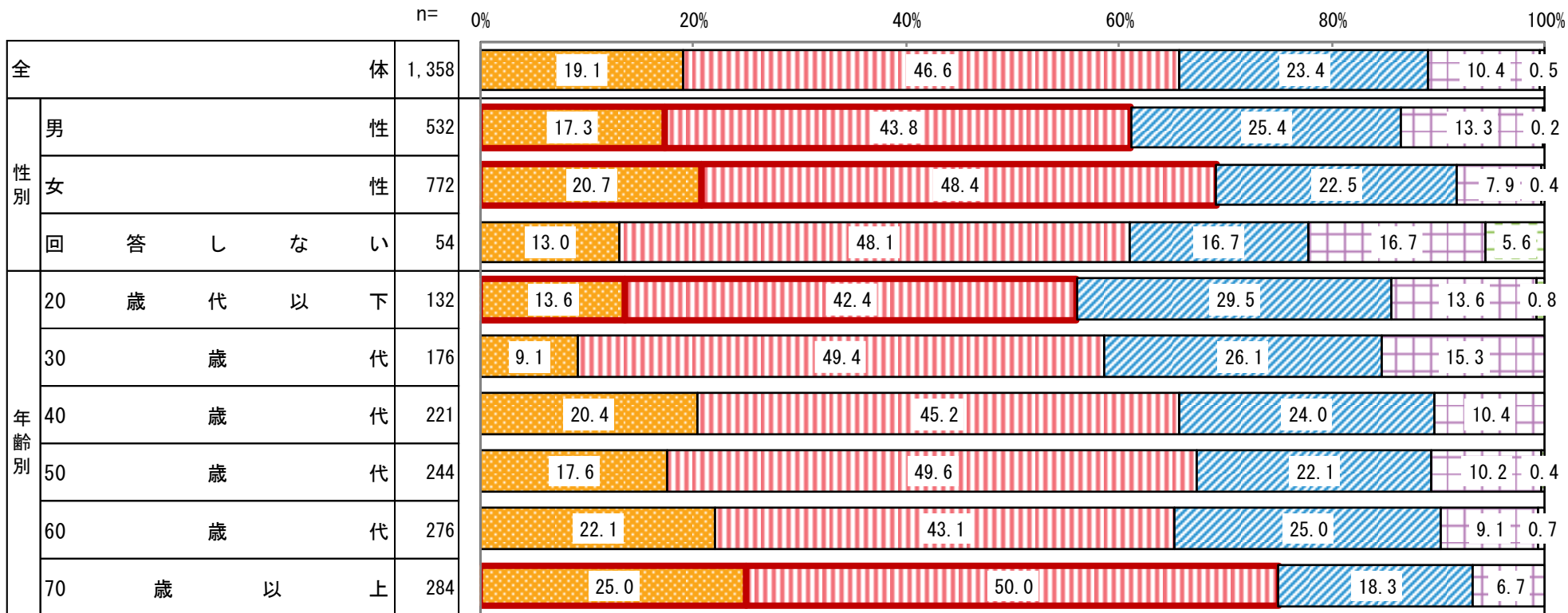
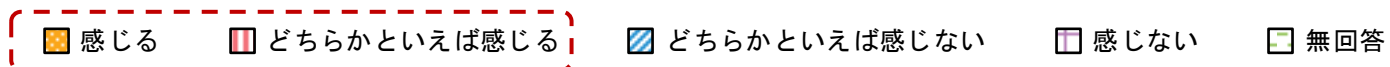
「地域や社会とのつながりを持つ機会がない」が71.2%で最も高く、次いで「誰かの役に立っていることを実感する機会がない」（30.5%）、「困ったときに相談できる相手がいない」（28.3%）の順となっている。



問11 『地域や社会とのつながりを感じている』性別／年齢別結果

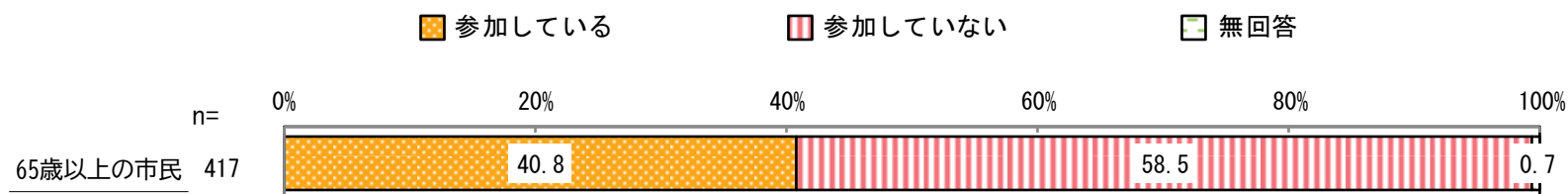
『地域や社会とのつながりを感じている』市民の割合は、性別では、[男性]（61.1%）、[女性]（69.1%）で[女性]が全体値（65.7%）を上回る結果となっている。

年齢別では、[70歳以上]（75.0%）が最も高く全体値を上回る。なお[20歳代以下]（56.0%）が最も低い結果となった。



問13 生きがいを感じる活動や社会活動等への参加状況（単一回答）

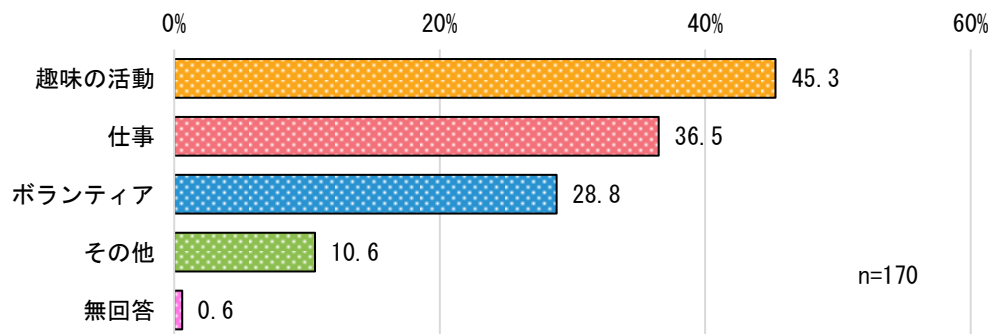
「参加している」65歳以上の市民の割合は40.8%で、令和6年度の40.6%と同程度となった。
「参加していない」65歳以上の市民の割合は58.5%で、令和6年度の59.4%と同程度となった。



<問13で「参加している」とお答えした65歳以上の方のみ>

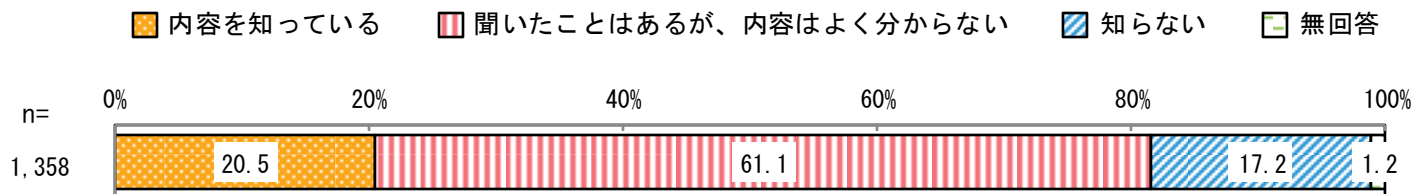
問14 参加している活動（複数回答）

「趣味の活動」が45.3%で最も高く、次いで「仕事」（36.5%）、「ボランティア」（28.8%）の順となっている。



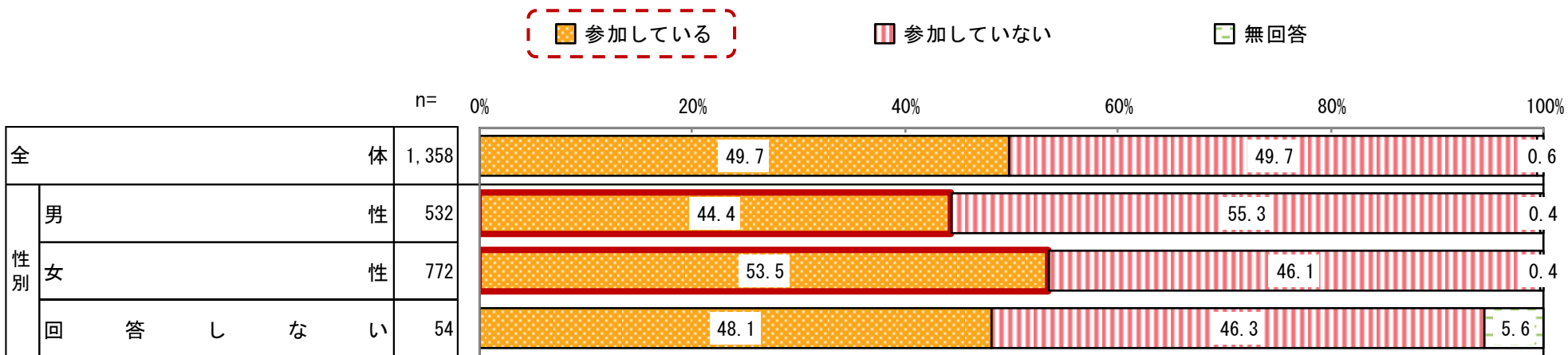
問15 「民生委員・児童委員制度」の認知度（単一回答）

「内容を知っている」市民の割合は20.5%で、令和6年度の24.9%より4.4ポイント減少した。



問13 生きがいを感じる活動や社会活動等に「参加している」性別結果

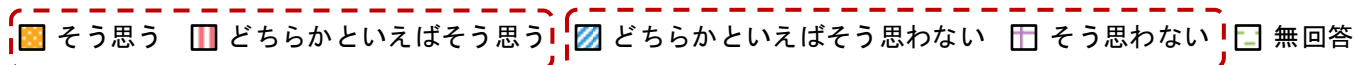
生きがいを感じる活動や社会活動等に「参加している」市民の割合は、性別では、[男性]（44.4%）、[女性]（53.5%）で [女性] が全体値（49.7%）を上回る結果となっている。



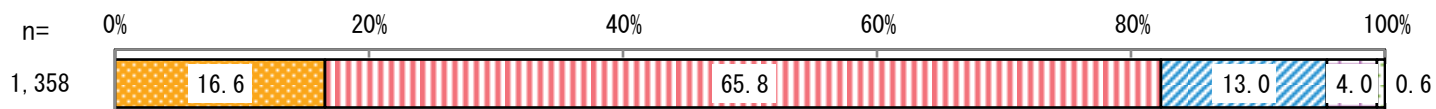
問16 松山市の「医療体制が充実している」と思うか（単一回答）

『医療体制が充実していると思う』（※1）市民の割合は82.4%で、令和6年度の85.0%より2.6ポイント減少した。

『医療体制が充実していると思わない』（※2）市民の割合は17.0%で、令和6年度の14.9%より2.1ポイント増加した。



『医療体制が充実していると思う』82.4% 『医療体制が充実していると思わない』17.0%

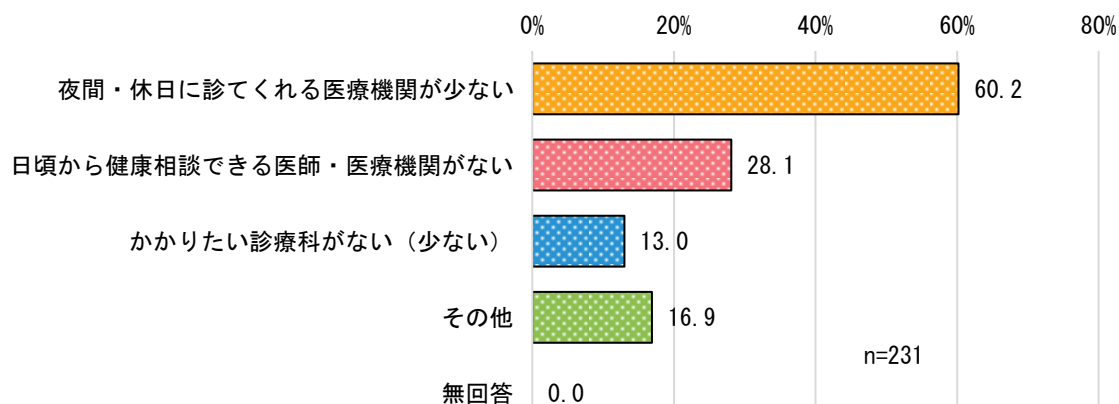


（※1）「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」 （※2）「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」

<問16で「どちらかといえばそう思わない」又は「そう思わない」とお答えの方のみ>

問17 松山市の「医療体制が充実している」と思わない理由（複数回答）

「夜間・休日に診てくれる医療機関が少ない」が60.2%で最も高く、次いで「日頃から健康相談できる医師・医療機関がない」（28.1%）、「かかりたい診療科がない（少ない）」（13.0%）の順となっている。

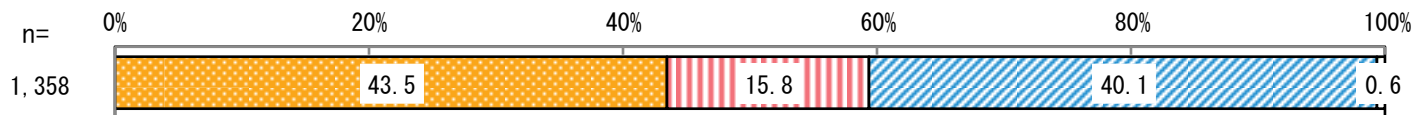


問18 生活習慣病予防を意識した生活改善への取組状況（単一回答）

『生活習慣病予防を意識した運動・食生活などを6か月以上継続している』市民の割合は43.5%で、令和6年度の46.5%より3.0ポイント減少した。

■ 取り組んでいる（6か月以上）
■ 取り組んでいる（6か月未満）
■ 取り組んでいない
■ 無回答

「6か月以上継続している」43.5%

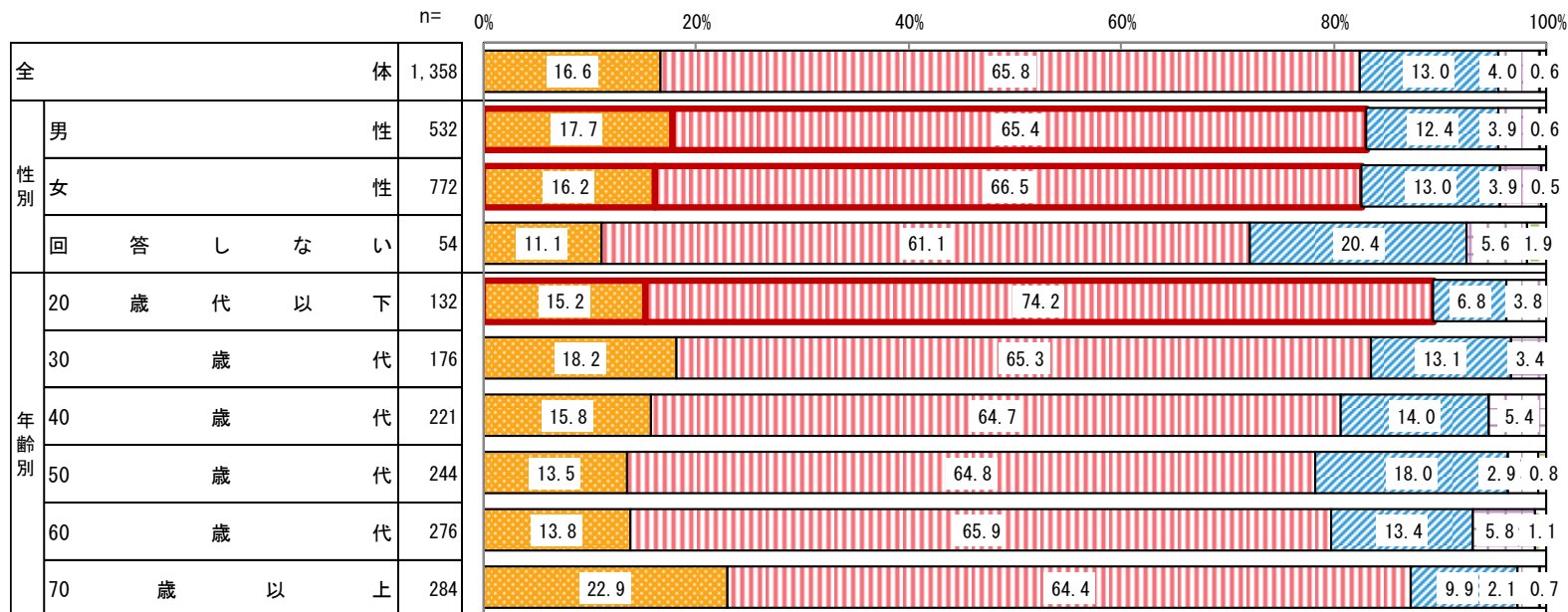


クロス
集計

問16 『医療体制が充実していると思う』性別／年齢別結果

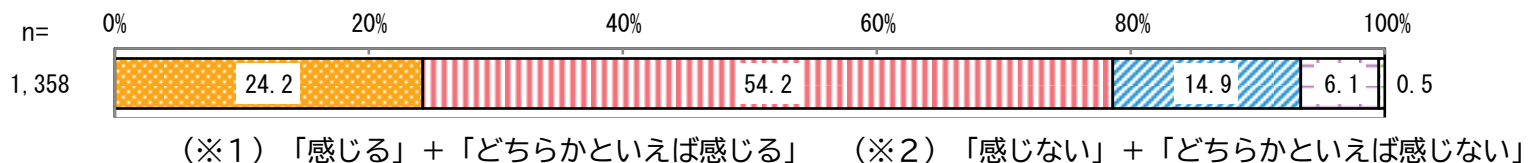
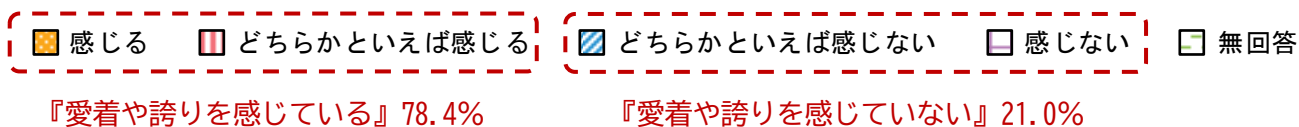
『医療体制が充実していると思う』市民の割合は、性別では、男女ともに全体値（82.4%）と同程度となった。年齢別では、[20歳代以下]（89.4%）が最も高く全体値を上回る。

■ そう思う
■ どちらかといえばそう思う
■ どちらかといえばそう思わない
■ そう思わない
■ 無回答



問21 居住地に「愛着や誇り」を感じているか（単一回答）

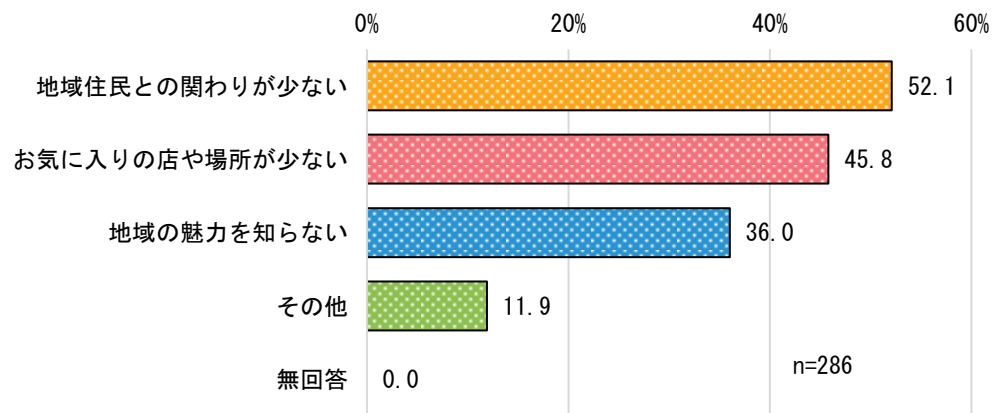
地域に『愛着や誇りを感じている』（※1）市民の割合は78.4%で、令和6年度の78.6%と同程度となった。
 地域に『愛着や誇りを感じていない』（※2）市民の割合は21.0%で、令和6年度の21.1%と同程度となった。



<問21で「どちらかといえば感じない」又は「感じない」とお答えの方のみ>

問22 「愛着や誇り」を感じない（感じにくい）理由（複数回答）

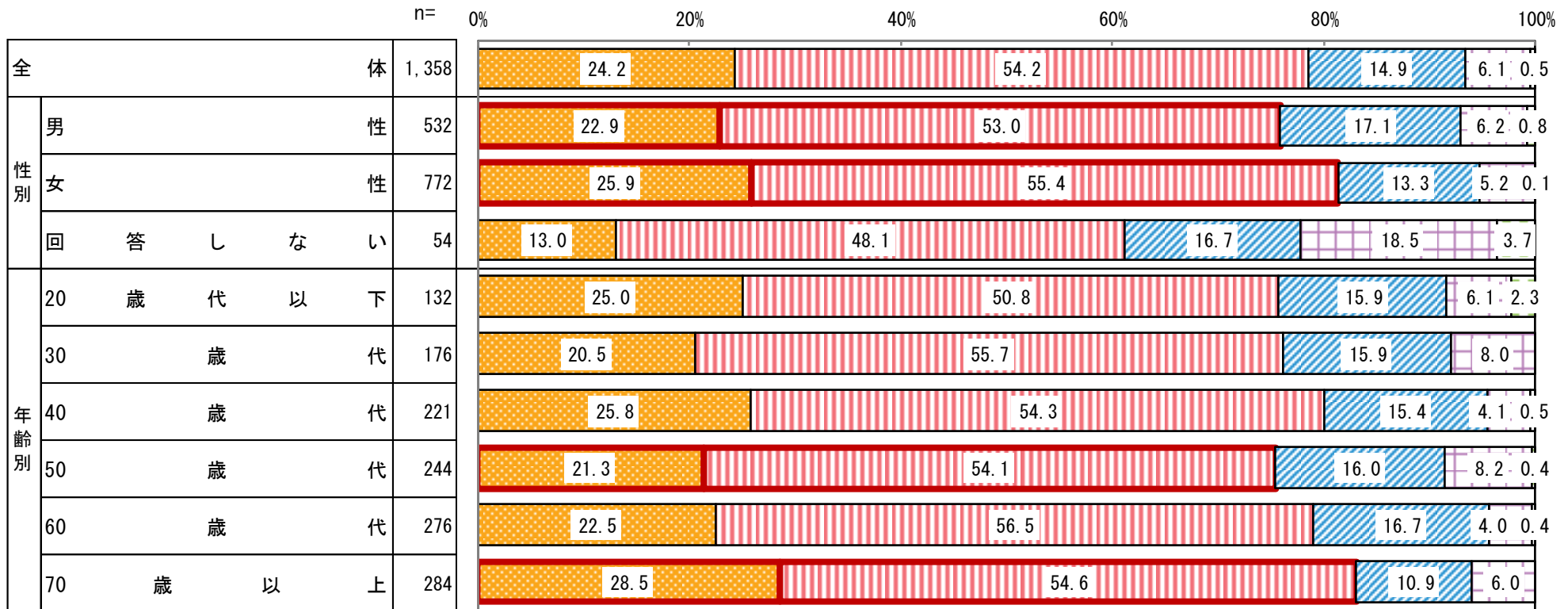
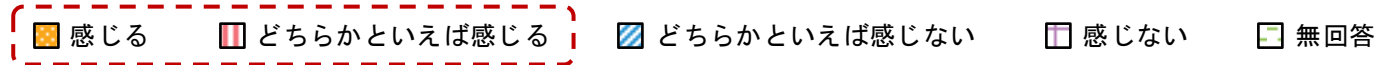
「地域住民との関わりが少ない」が52.1%で最も高く、次いで「お気に入りの店や場所が少ない」（45.8%）、「地域の魅力を知らない」（36.0%）の順となっている。



問21 地域に『愛着や誇りを感じている』性別／年齢別結果

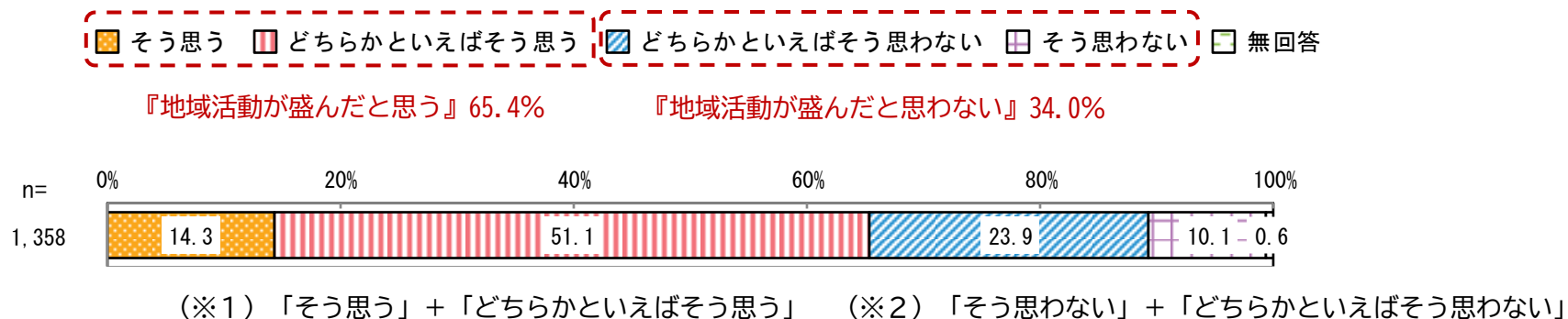
地域に『愛着や誇りを感じている』市民の割合は、性別では、[男性]（75.9%）、[女性]（81.3%）で[女性]が全体値（78.4%）を上回る結果となっている。

年齢別では、[70歳以上]（83.1%）が最も高く、[50歳代]（75.4%）が最も低い結果となった。



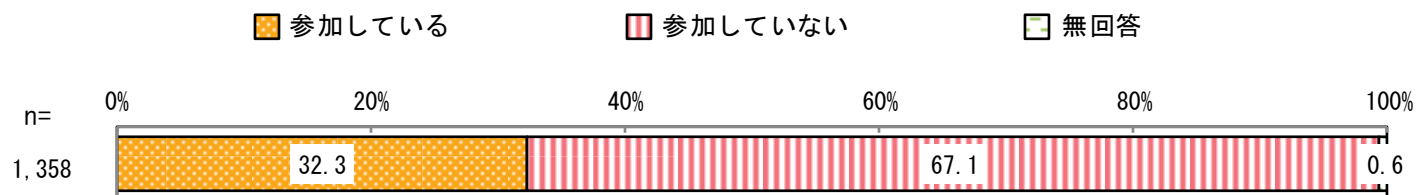
問23 居住地域での地域活動が盛んだと思うか（単一回答）

住んでいる地域の『地域活動が盛んだと思う』（※1）市民の割合は65.4%で、令和6年度の68.6%より3.2ポイント減少した。
住んでいる地域の『地域活動が盛んだと思わない』（※2）市民の割合は34.0%で、令和6年度の30.5%より3.5ポイント増加した。



問24 地域活動への参加状況（単一回答）

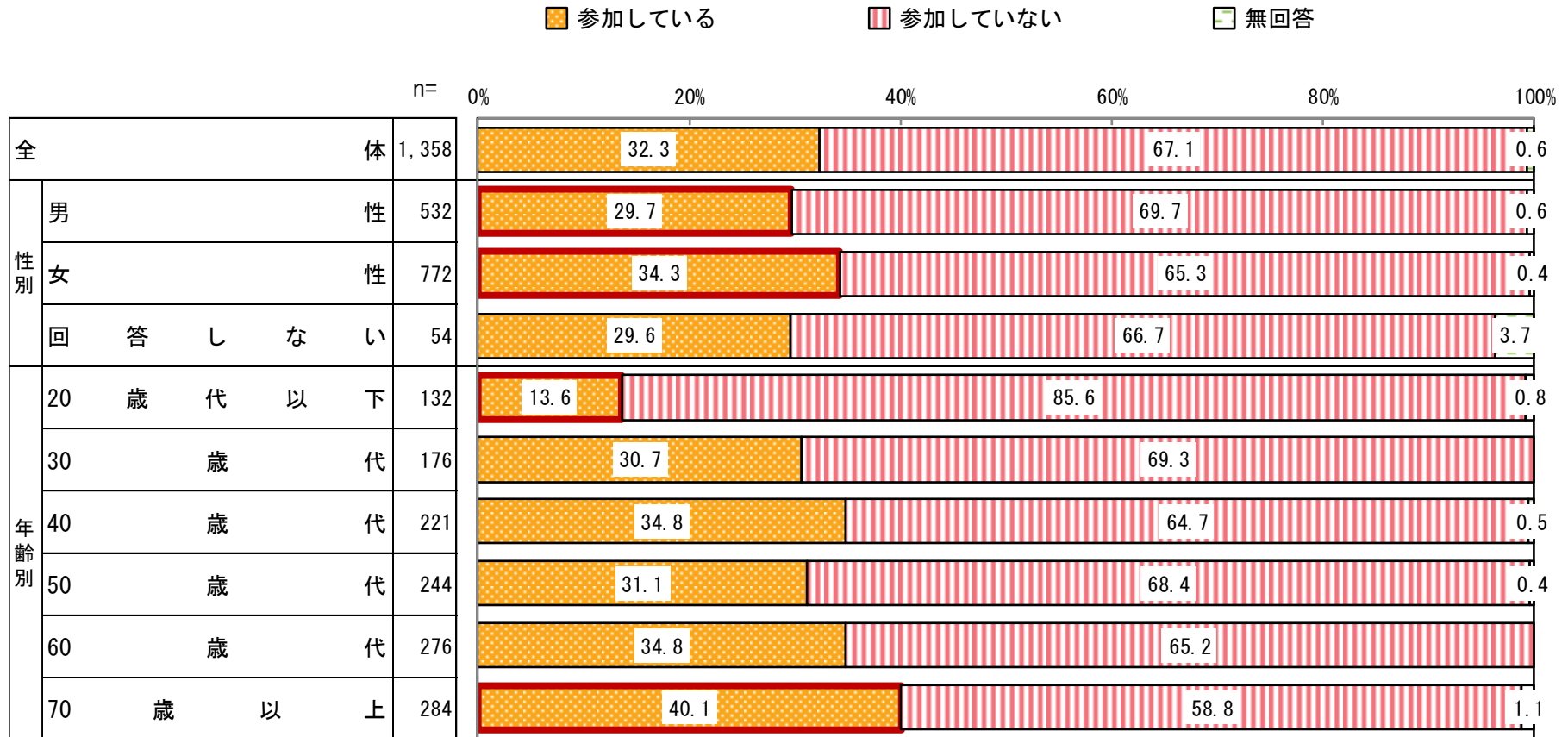
地域活動に「参加している」市民の割合は32.3%で、令和6年度の35.1%より2.8ポイント減少した。



問24 地域活動に「参加している」性別／年齢別結果

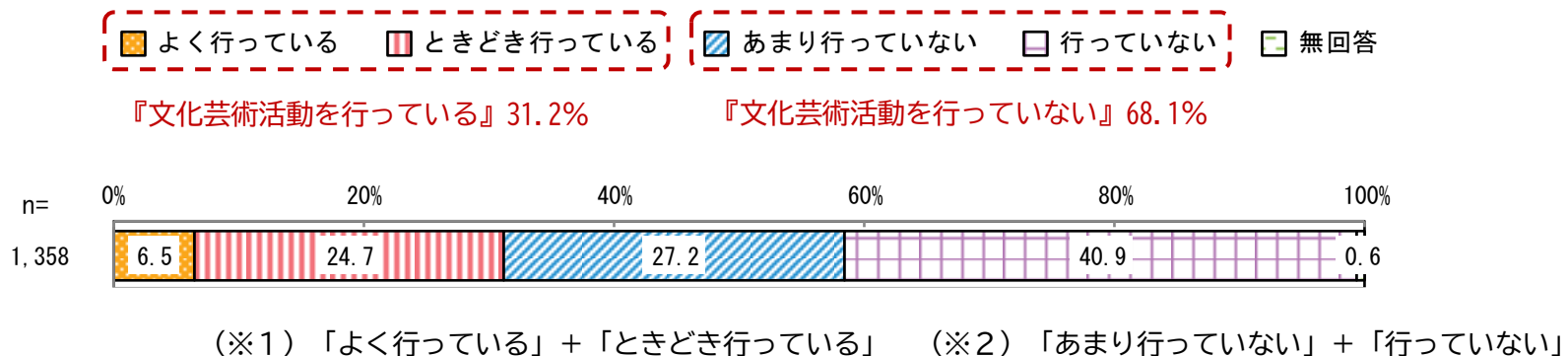
地域活動に「参加している」市民の割合は、性別では、[男性]（29.7%）、[女性]（34.3%）で[女性]が全体値（32.3%）を上回る結果となっている。

年齢別では、[70歳以上]（40.1%）が最も高く、[20歳代以下]（13.6%）が最も低い結果となった。



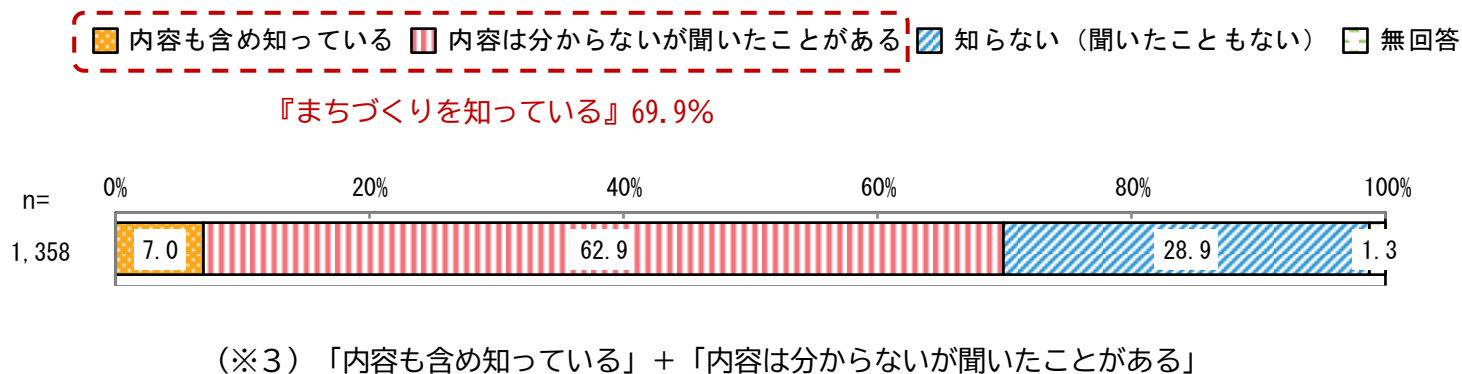
問26 生活の中での文化芸術活動の実施状況（単一回答）

『文化芸術活動を行っている』（※1）市民の割合は31.2%で、令和6年度の31.3%と同程度となった。
『文化芸術活動を行っていない』（※2）市民の割合は68.1%で、令和6年度の68.2%と同程度となった。



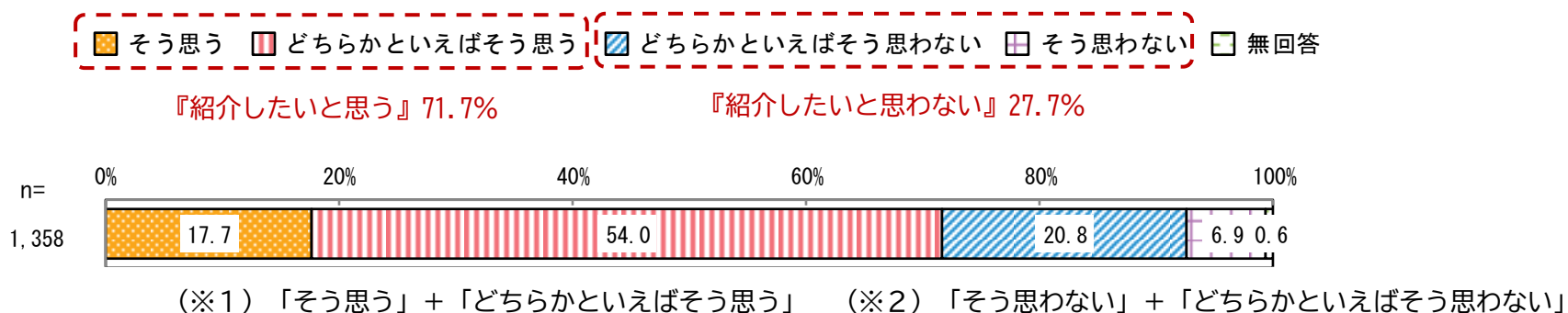
問27 『坂の上の雲』のまちづくり認知度（単一回答）

『『坂の上の雲』のまちづくりを知っている』（※3）市民の割合は69.9%となった。



問28 「松山市の魅力友人や知人に紹介したい」と思うか（単一回答）

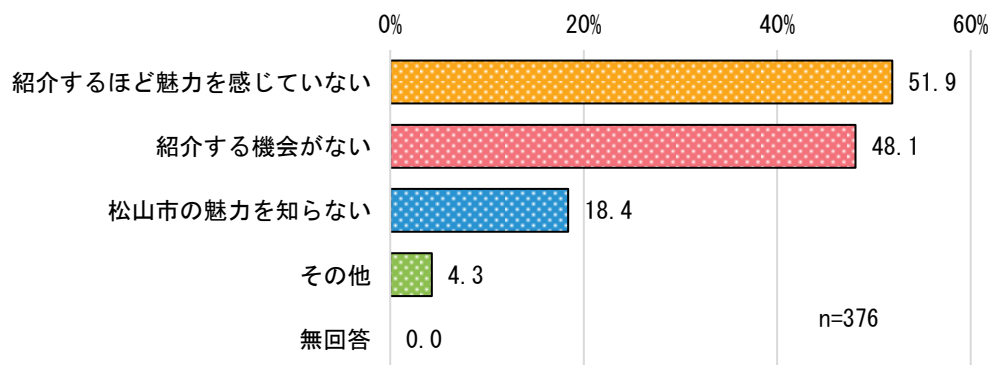
『松山市の魅力友人や知人に紹介したいと思う』（※1）市民の割合は71.7%で、令和6年度の74.1%より2.4ポイント減少した。
『松山市の魅力友人や知人に紹介したいと思わない』（※2）市民の割合は27.7%で、令和6年度の25.5%より2.2ポイント増加した。



<問28で「どちらかといえばそう思わない」又は「そう思わない」とお答えの方のみ>

問29 「松山市の魅力友人や知人に紹介したい」と思わない理由（複数回答）

「紹介するほど魅力を感じていない」が51.9%で最も高く、次いで「紹介する機会がない」（48.1%）、「松山市の魅力を知らない」（18.4%）の順となっている。

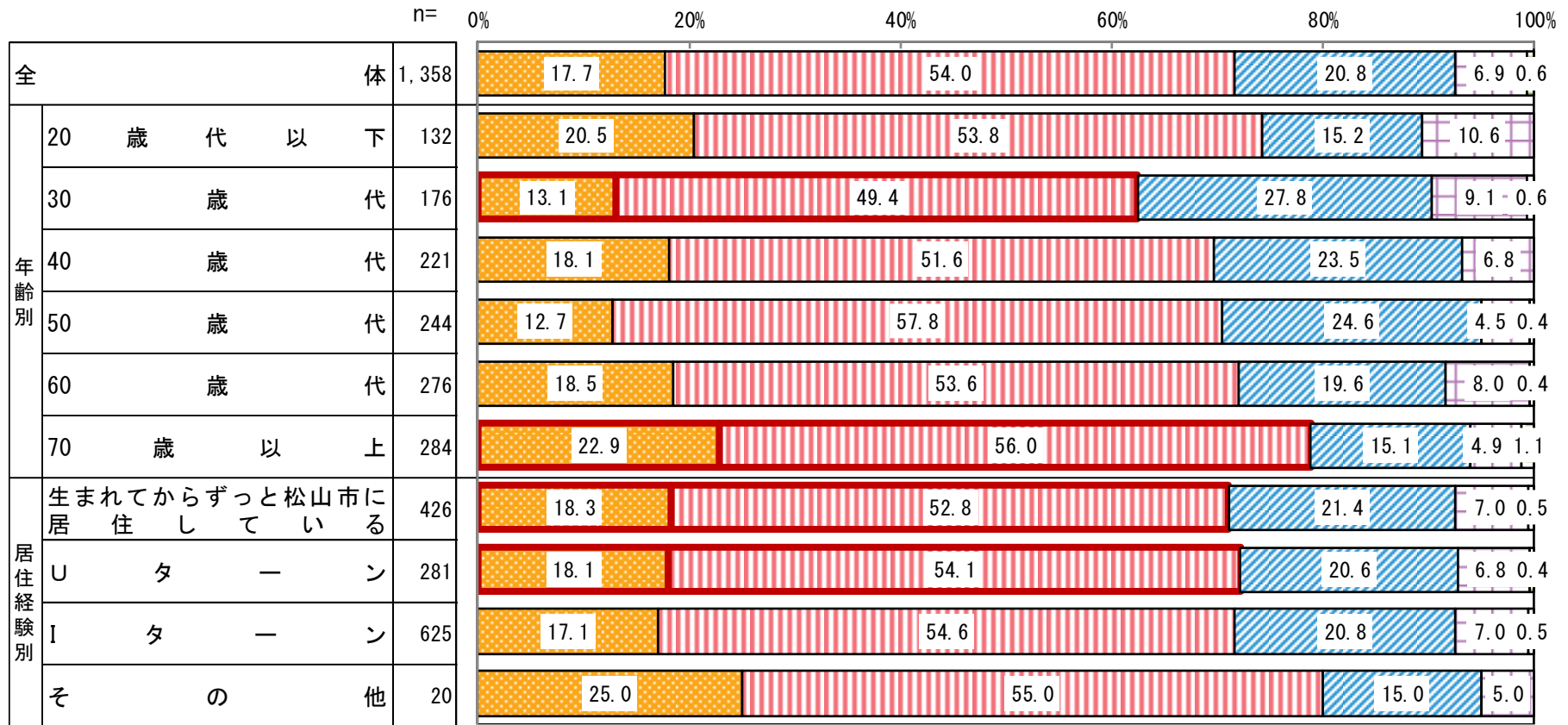


問28 『松山市の魅力を友人や知人に紹介したいと思う』年齢別／居住経験別結果

『松山市の魅力を友人や知人に紹介したいと思う』市民の割合は、年齢別では、[70歳以上]（78.9%）が最も高く、[30歳代]（62.5%）が最も低い結果となった。

居住経験別では、[Uターン]（72.2%）が最も高く、[生まれてからずっと松山市に居住している]（71.1%）が最も低い結果となっている。

■ そう思う
■ どちらかといえばそう思う
■ どちらかといえばそう思わない
■ そう思わない
■ 無回答



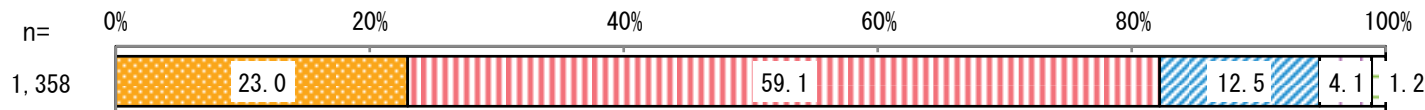
問30 松山市を文化的なまちだと思うか（単一回答）

『松山市を文化的なまちだと思う』（※1）市民の割合は82.1%で、令和6年度の83.2%より1.1ポイント減少した。
『松山市を文化的なまちだと思わない』（※2）市民の割合は16.6%で、令和6年度の14.5%より2.1ポイント増加した。

■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

『文化的なまちだと思う』 82.1%

『文化的なまちだと思わない』 16.6%



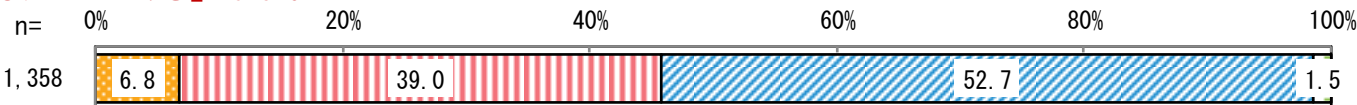
(※1) 「そう思う」 + 「どちらかといえばそう思う」 (※2) 「そう思わない」 + 「どちらかといえばそう思わない」

問31 松山市のブランドメッセージ「幸せになろう。」の認知度（単一回答）

『「幸せになろう。」を見たり聞いたりしたことがある』（※3）市民の割合は45.8%となっている。

■ 内容も含め知っている ■ 内容は分からないが、見たり聞いたりしたことがある ■ 知らない（聞いたこともない） ■ 無回答

『見たり聞いたりしたことがある』 45.8%



(※3) 「内容も含め知っている」 + 「内容は分からないが、見たり聞いたりしたことがある」

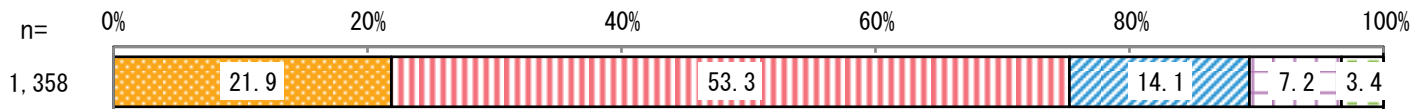
問32 松山市のブランドメッセージ「幸せになろう。」の共感度（単一回答）

『「幸せになろう。」の内容に共感できる』（※4）市民の割合は75.2%、『「幸せになろう。」の内容に共感できない』（※5）市民の割合は21.3%となっている。

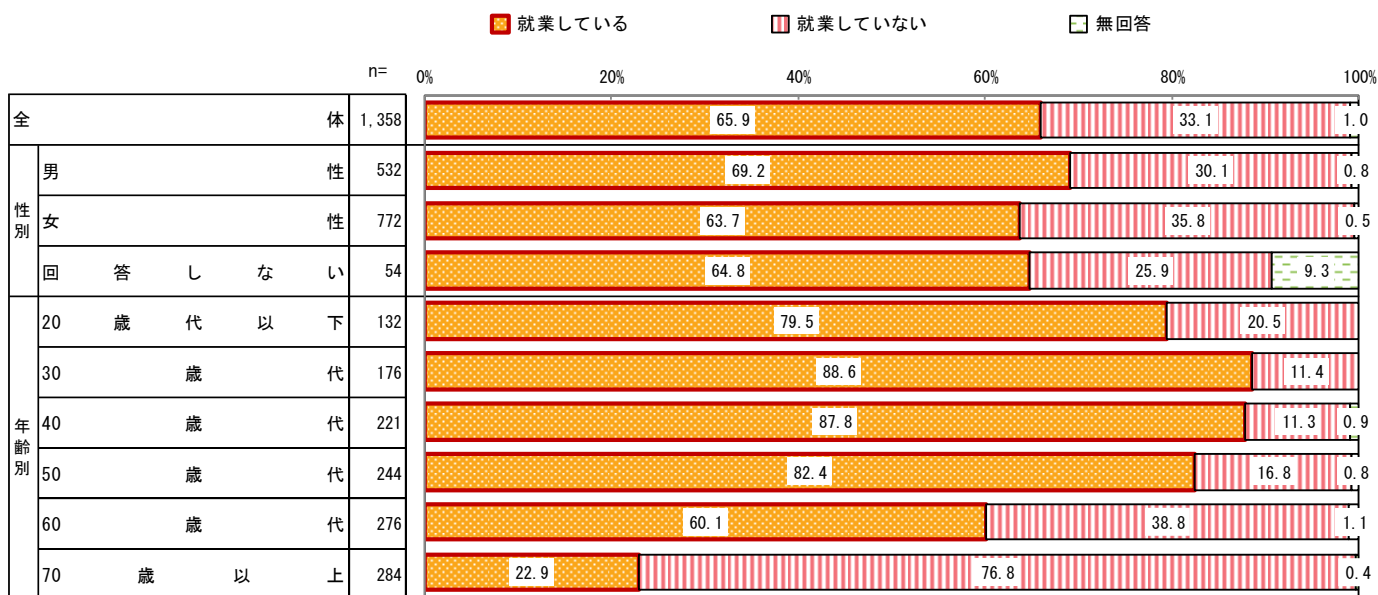
■ 共感できる ■ どちらかといえば共感できる ■ どちらかといえば共感できない ■ 共感できない ■ 無回答

『共感できる』 75.2%

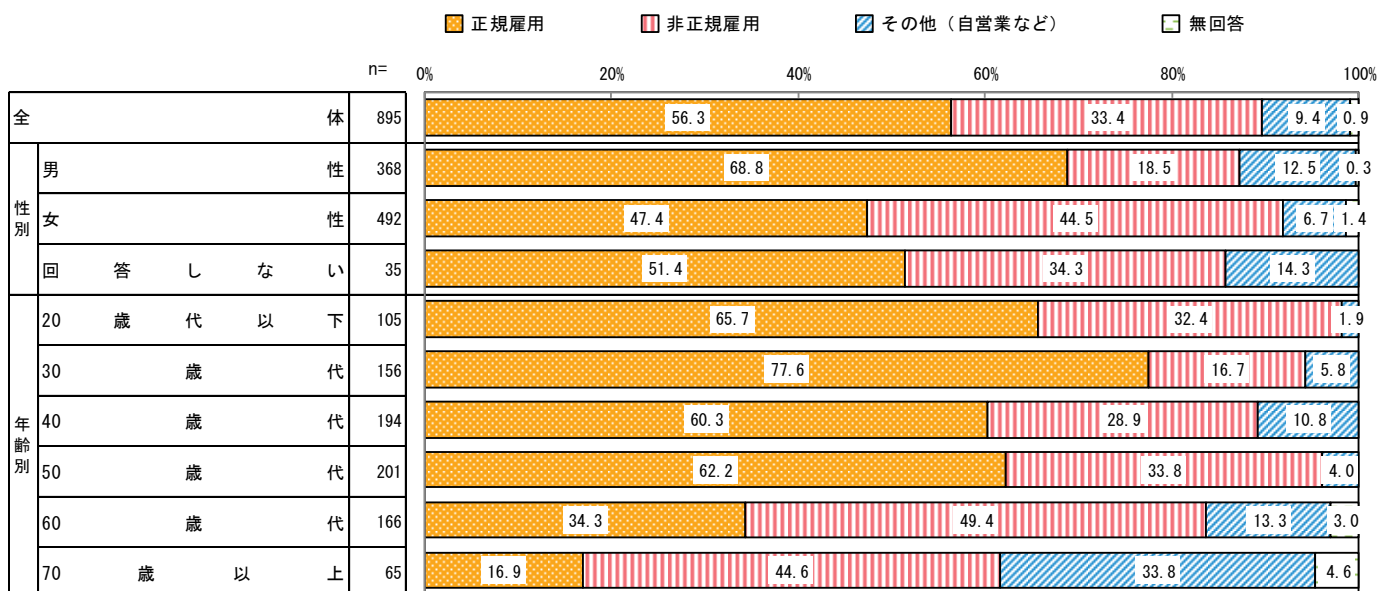
『共感できない』 21.3%



(※4) 「共感できる」 + 「どちらかといえば共感できる」 (※5) 「共感できない」 + 「どちらかといえば共感できない」



【問33】（単一回答）
就業者は全体の65.9%を占める。



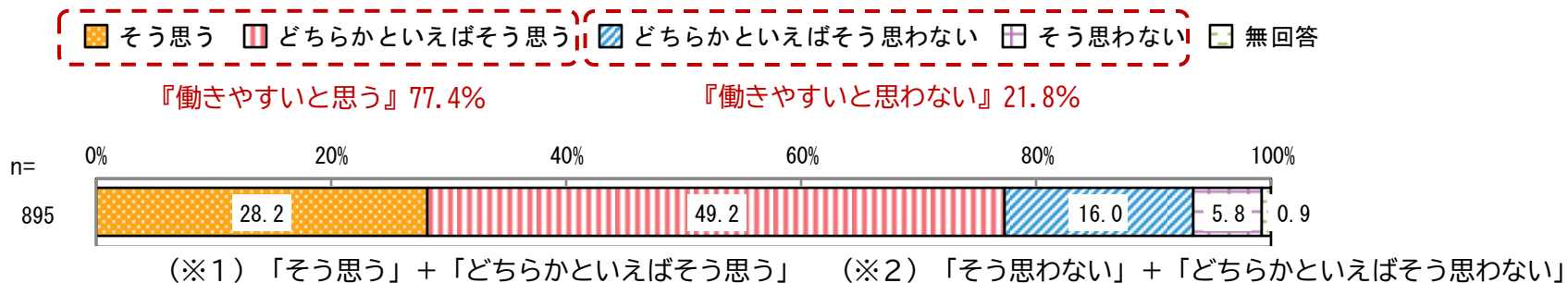
【問36】（単一回答）
就業者のうち、正規雇用者は
全体の56.3%、非正規雇用者は
33.4%を占める。

【問36】は【問33】で「就業している」と
回答した方を対象とした設問

<問33で「就業している」とお答えの方のみ>

問34 現在の職場環境が「働きやすい」と思うか（単一回答）

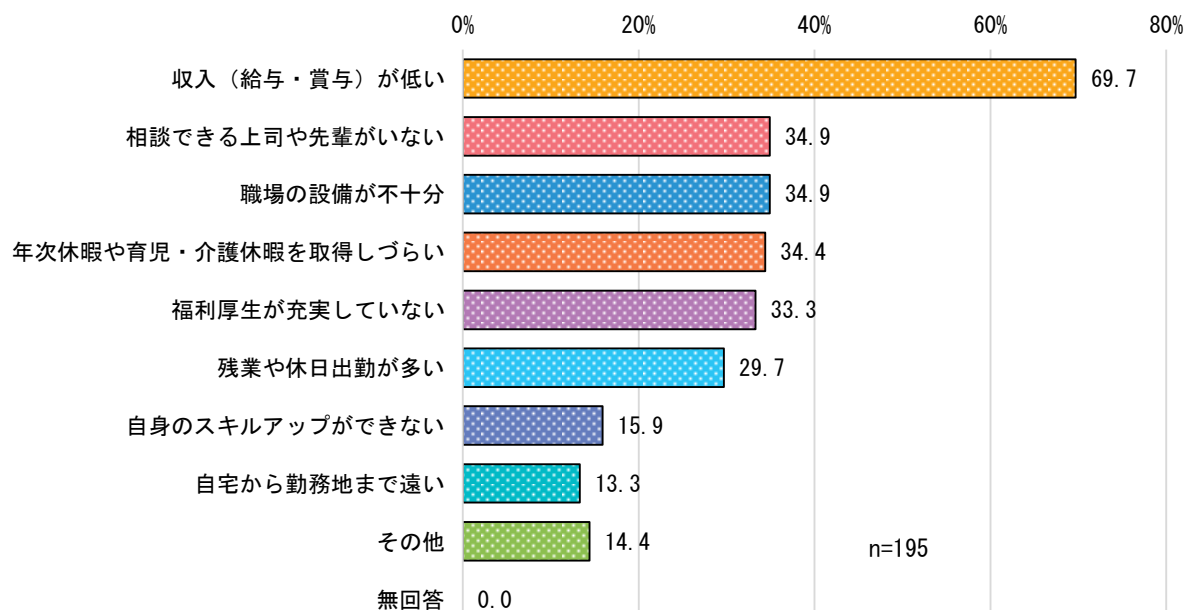
現在の職場が『働きやすいと思う』（※1）市民の割合は77.4%で、令和6年度の70.8%より6.6ポイント増加した。
現在の職場が『働きやすいと思わない』（※2）市民の割合は21.8%で、令和6年度の27.1%より5.3ポイント減少した。



<問34で「どちらかといえばそう思わない」又は「そう思わない」とお答えの方のみ>

問35 「働きやすい」と思わない理由（複数回答）

「収入（給与・賞与）が低い」が69.7%で最も高く、次いで「相談できる上司や先輩がいない」、「職場の設備が不十分」（ともに34.9%）の順となっている。

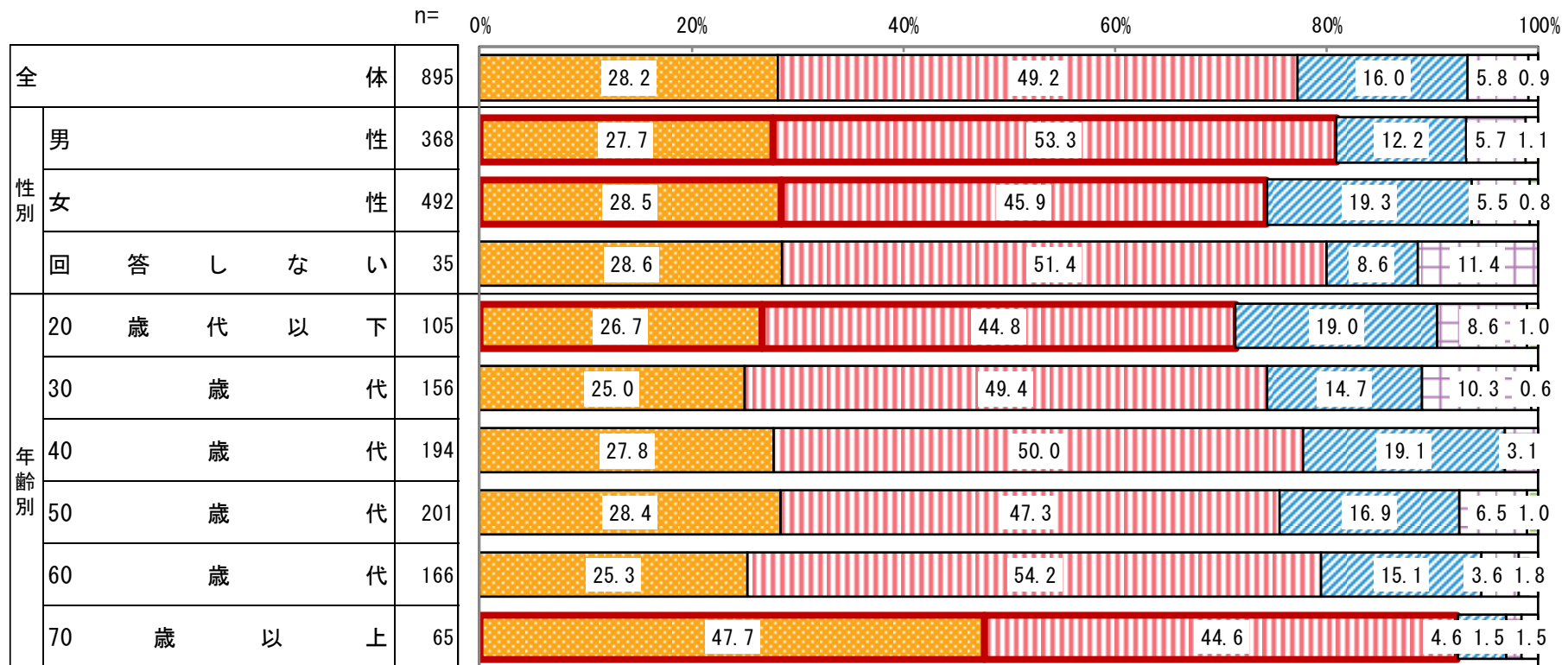


問34 現在の職場が『働きやすいと思う』性別／年齢別結果

現在の職場が『働きやすいと思う』市民の割合は、性別では、[男性]（81.0%）、[女性]（74.4%）で[男性]が全体値（77.4%）を上回る結果となっている。

年齢別では、[70歳以上]（92.3%）で最も高く、[20歳代以下]（71.5%）が最も低い結果となった。

■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

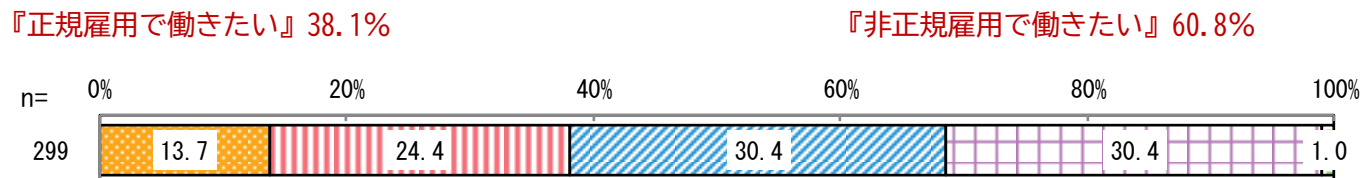


<問36で現在の雇用形態を「非正規雇用」とお答えの方のみ>

問37 正規雇用を希望するか（単一回答）

現在非正規雇用で、今後『正規雇用で働きたい』（※1）市民の割合は38.1%、
現在非正規雇用で、今後も『非正規雇用で働きたい』（※2）市民の割合は60.8%となっている。

■ 正規雇用で働きたい ■ どちらかといえば正規雇用で働きたい ■ どちらかといえば非正規雇用で働きたい ■ 非正規雇用で働きたい ■ 無回答



『正規雇用で働きたい』 38.1%

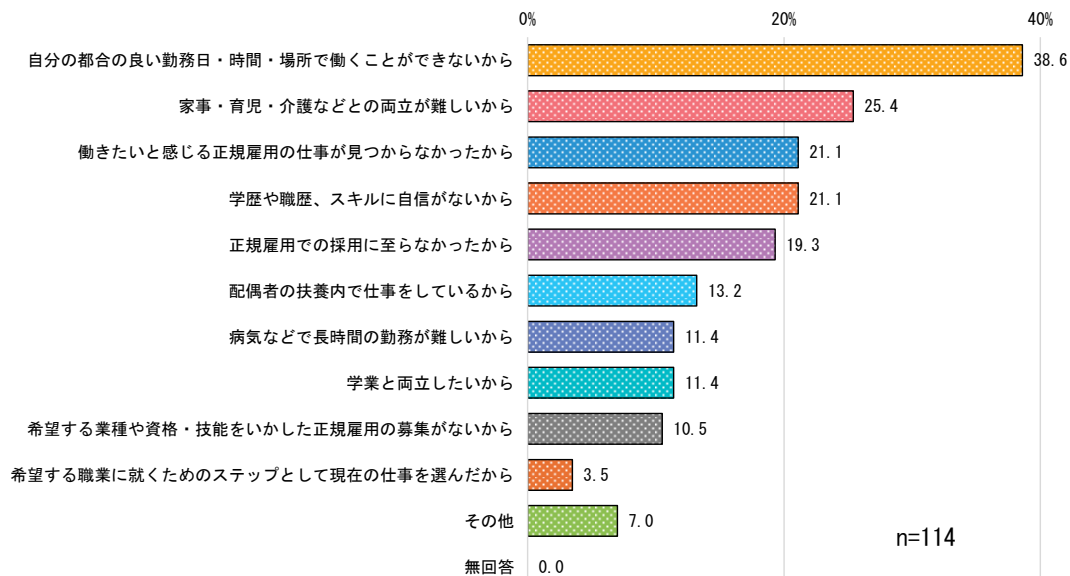
『非正規雇用で働きたい』 60.8%

(※1) 「正規雇用で働きたい」 + 「どちらかといえば正規雇用で働きたい」
(※2) 「非正規雇用で働きたい」 + 「どちらかといえば非正規雇用で働きたい」

<問37で「正規雇用で働きたい」又は「どちらかといえば正規雇用で働きたい」とお答えの方のみ>

問38 非正規雇用で働いている理由（複数回答）

「自分の都合の良い勤務日・時間・場所で働くことができないから」が38.6%で最も高く、次いで「家事・育児・介護などの両立が難しいから」（25.4%）の順となっている。

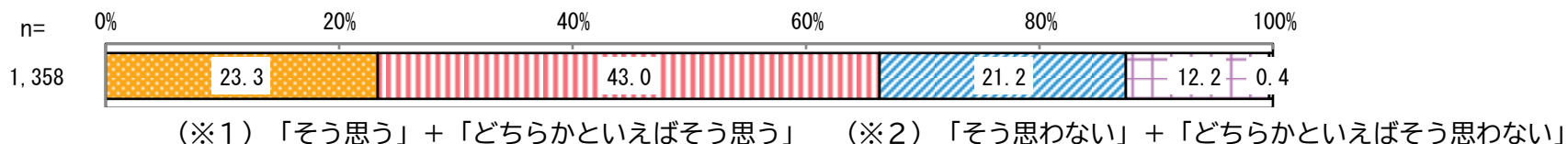


n=114

問39 松山市は自分に合った移動手段で気軽に目的地へ「移動しやすい（出かけやすい）」と思うか（単一回答）

気軽に目的地へ『移動しやすいと思う』（※1）市民の割合は66.3%で、令和6年度の68.6%より2.3ポイント減少した。
気軽に目的地へ『移動しやすいと思わない』（※2）市民の割合は33.4%で、令和6年度の31.1%より2.3ポイント増加した。

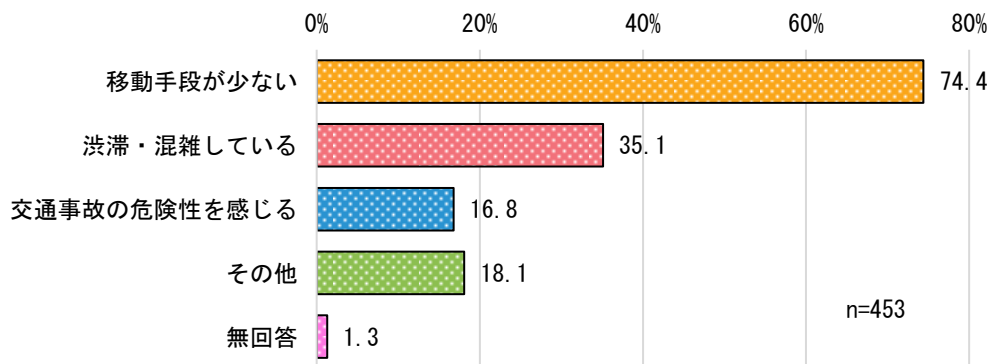
『移動しやすいと思う』 66.3%
『移動しやすいと思わない』 33.4%



<問39で「どちらかといえばそう思わない」又は「そう思わない」とお答えの方のみ>

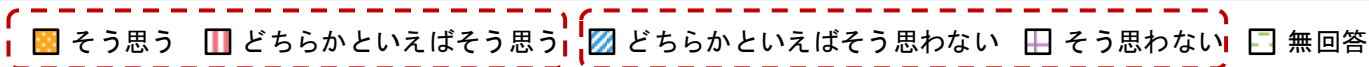
問40 「移動しやすい」と思わない理由（複数回答）

「移動手段が少ない」が74.4%で最も高く、次いで「渋滞・混雑している」（35.1%）、「交通事故の危険性を感じる」（16.8%）の順となっている。



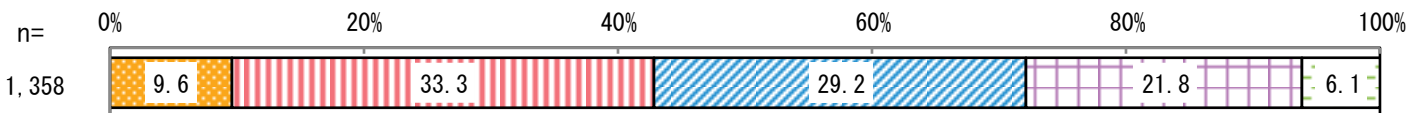
問41 松山市が公共交通の便利なまちだと思うか（単一回答）

松山市は『公共交通の便利なまちだと思う』（※1）市民の割合は42.9%で、令和6年度の50.4%より7.5ポイント減少した。
松山市は『公共交通の便利なまちだと思わない』（※2）市民の割合は51.0%で、令和6年度の48.9%より2.1ポイント増加した。



『公共交通が便利だと思う』42.9%

『公共交通が便利だと思わない』51.0%



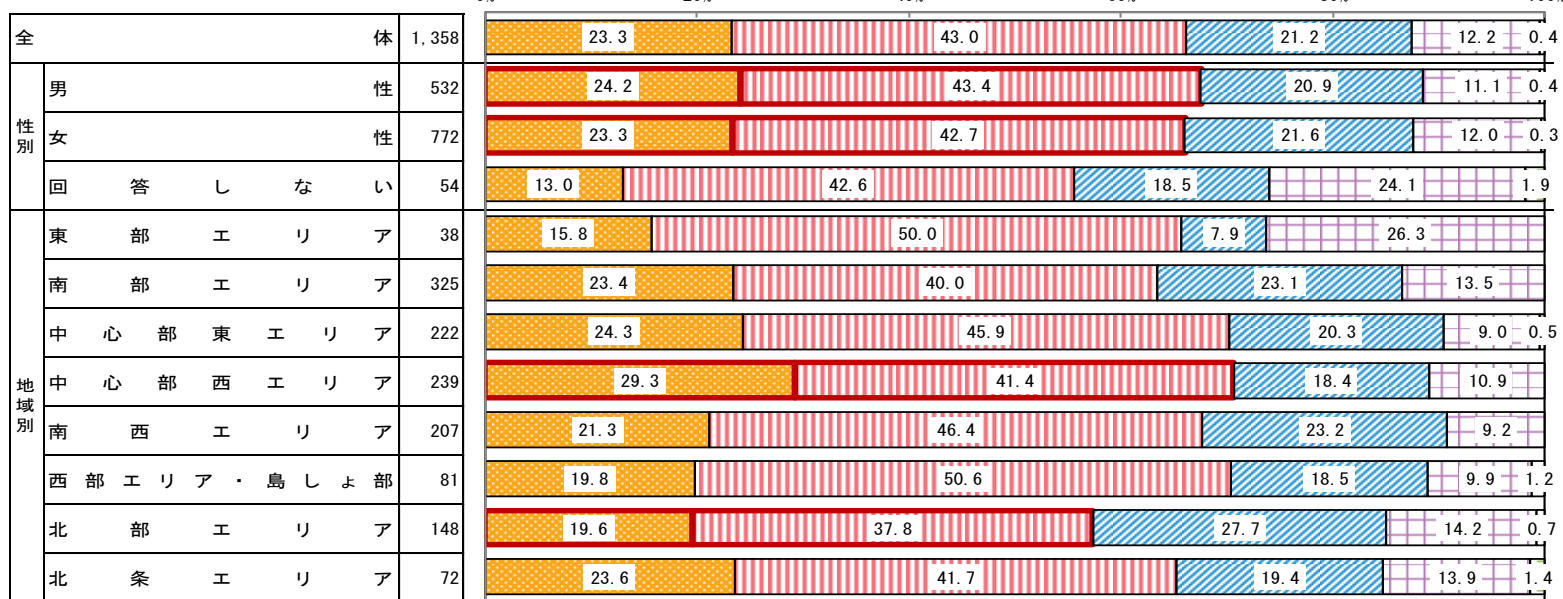
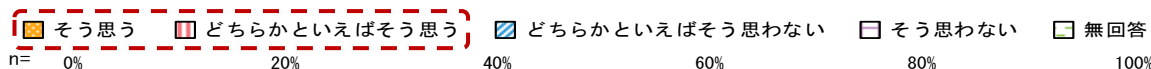
（※1）「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」 （※2）「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」

クロス
集計

問39 気軽に目的地へ『移動しやすいと思う』性別／地域別結果

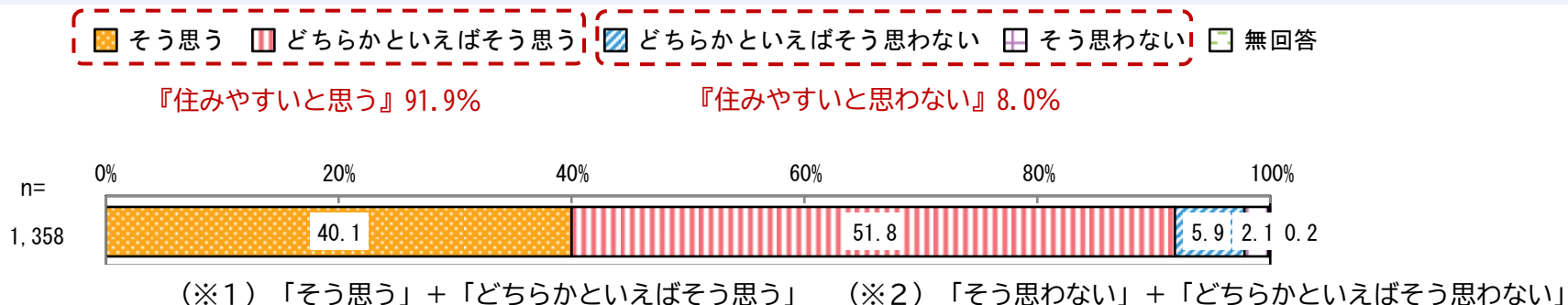
気軽に目的地へ『移動しやすいと思う』市民の割合は、性別では、[男性]（67.6%）、[女性]（66.0%）で[男性]が全体値（66.3%）を上回る結果となっている。

地域別では、[中心部西エリア]（70.7%）が最も高く、[北部エリア]（57.4%）が最も低い結果となった。



問42 松山市は「住みやすい」まちか（単一回答）

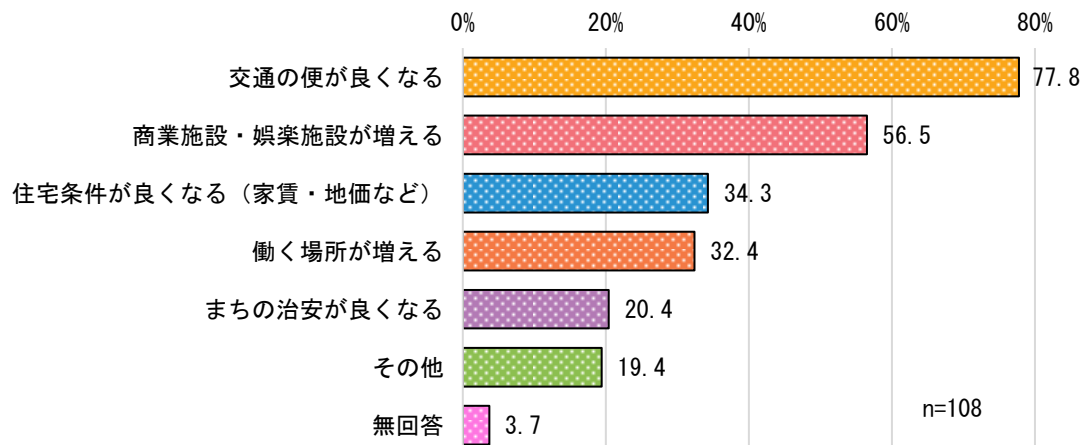
松山市は『住みやすいと思う』（※1）市民の割合は91.9%で、令和6年度の92.2%と同程度となった。
松山市は『住みやすいと思わない』（※2）市民の割合は8.0%で、令和6年度の7.6%と同程度となった。



<問42で「どちらかといえばそう思わない」又は「そう思わない」とお答えの方のみ>

問43 どうなれば松山市が住みやすくなるか（複数回答）

「交通の便が良くなる」が77.8%で最も高く、次いで「商業施設・娯楽施設が増える」（56.5%）、
「住宅条件が良くなる（家賃・地価など）」（34.3%）の順となっている。

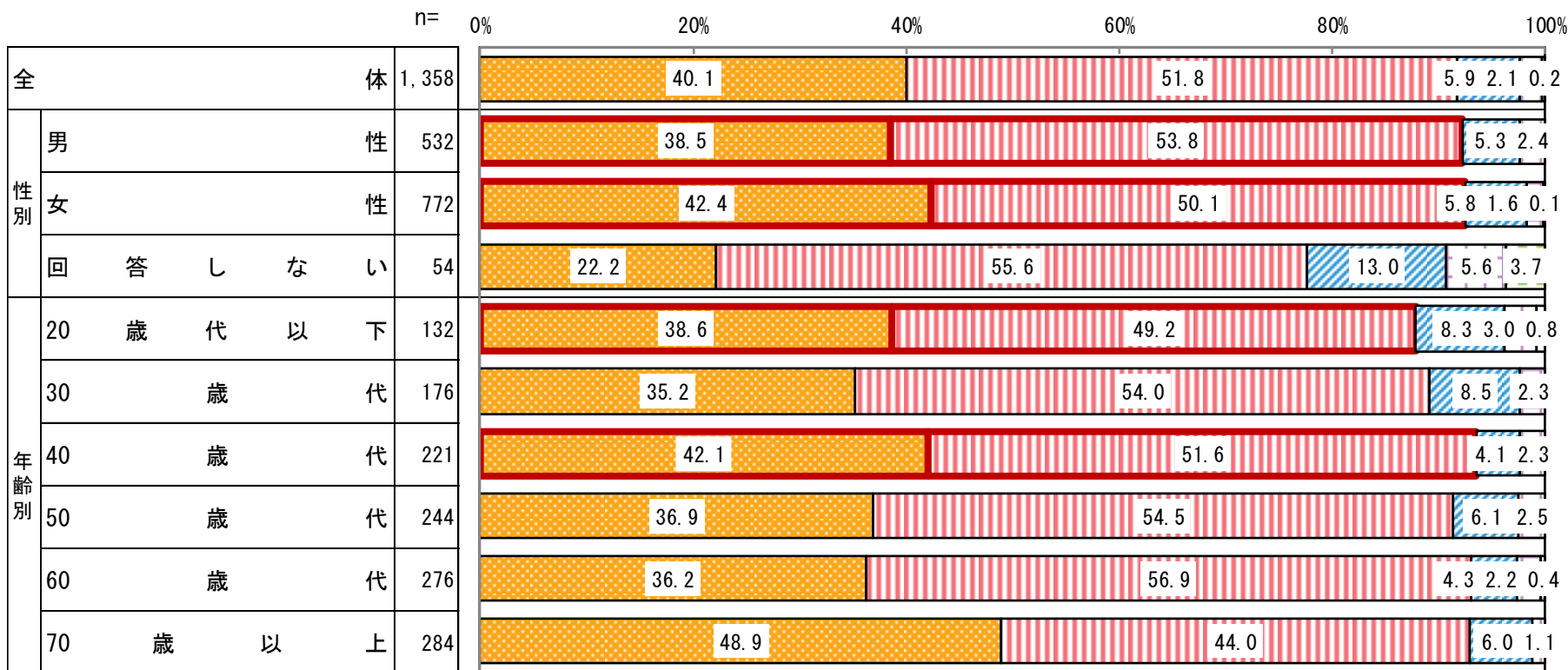


問42 松山市は『住みやすいと思う』性別／年齢別結果

松山市は『住みやすいと思う』市民の割合は、性別では、[男性]（92.3%）、[女性]（92.5%）で男女ともに全体値（91.9%）と同程度となった。

年齢別では、[40歳代]（93.7%）が最も高く、[20歳代以下]（87.8%）が最も低い結果となった。

■ そう思う
■ どちらかといえばそう思う
■ どちらかといえばそう思わない
■ そう思わない
■ 無回答



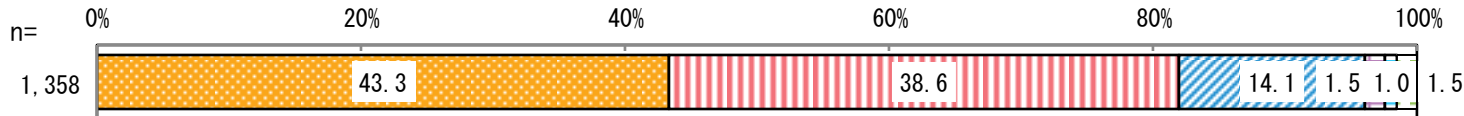
問44 今後も松山市に住み続けたいか（単一回答）

今後も松山市に『住み続けたいと思う』（※1）市民の割合は81.9%で、令和6年度の81.4%と同程度となった。
 今後は松山市に『住み続けたくないと思う』（※2）市民の割合は2.5%で、令和6年度の3.4%と同程度となった。

■ ずっと住み続けたい
■ どちらかといえば住み続けたい
■ どちらともいえない
■ どちらかといえば住み続けたくない
■ 住み続けたくない
■ 無回答

『住み続けたい』81.9%

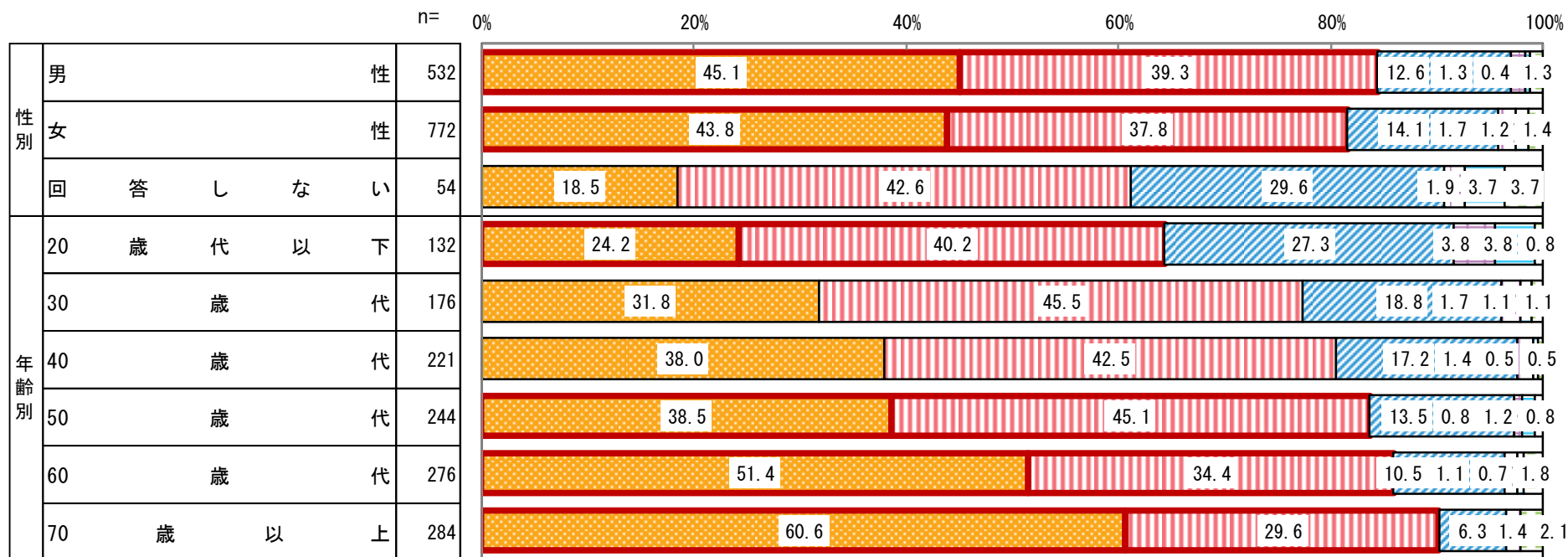
『住み続けたくない』2.5%



（※1）「ずっと住み続けたい」 + 「どちらかといえば住み続けたい」 （※2）「住み続けたくない」 + 「どちらかといえば住み続けたくない」

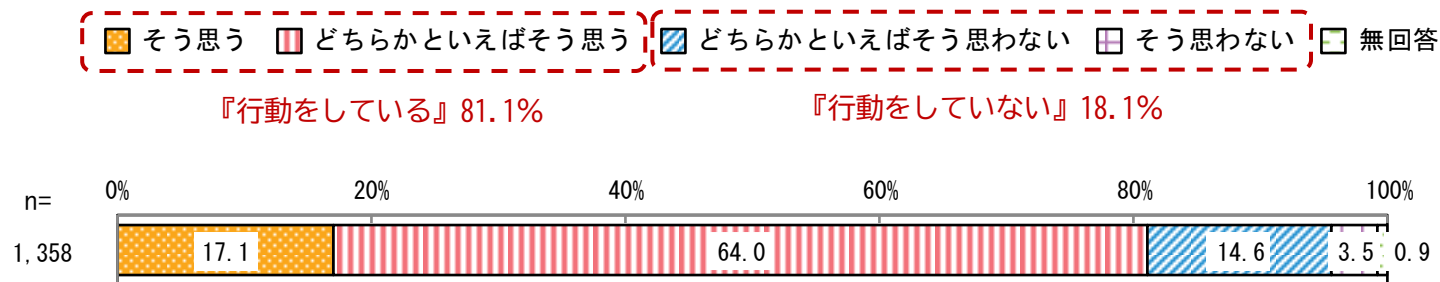
今後も松山市に『住み続けたいと思う』市民の割合は、性別では、[男性]（84.4%）、[女性]（81.6%）と[男性]が全体値（81.9%）を上回る結果となっている。

年齢別では、[70歳以上]（90.2%）が最も高く、[20歳代以下]（64.4%）が最も低い。また、[50歳代]（83.6%）、[60歳代]（85.8%）、[70歳以上]が全体値を上回る結果となっている。



問45 「環境にやさしい行動をしている」と思うか（単一回答）

『環境にやさしい行動をしていると思う』（※1）市民の割合は81.1%で、令和6年度の76.5%より4.6ポイント増加した。
『環境にやさしい行動をしていると思わない』（※2）市民の割合は18.1%で、令和6年度の22.4%より4.3ポイント減少した。

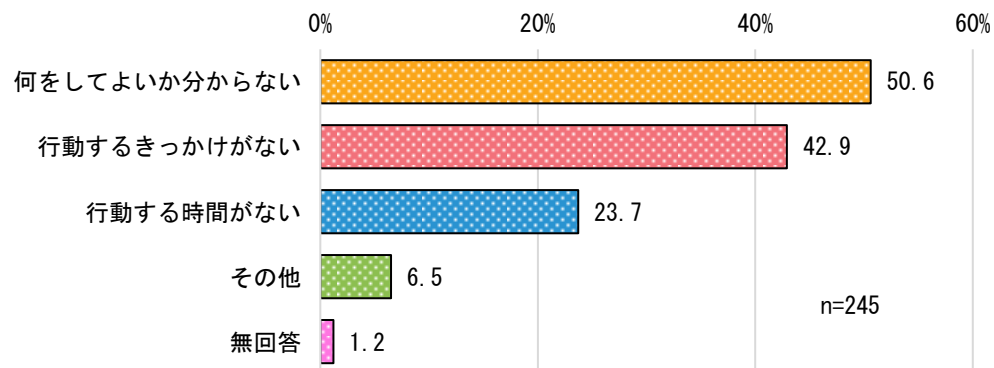


（※1）「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」 （※2）「そう思わない」＋「どちらかといえばそう思わない」

<問45で「どちらかといえばそう思わない」又は「そう思わない」とお答えの方のみ>

問46 「環境にやさしい行動をしている」と思わない理由（複数回答）

「何をしてよいか分からない」が50.6%で最も高く、次いで「行動するきっかけがない」（42.9%）、「行動する時間がない」（23.7%）の順となっている。

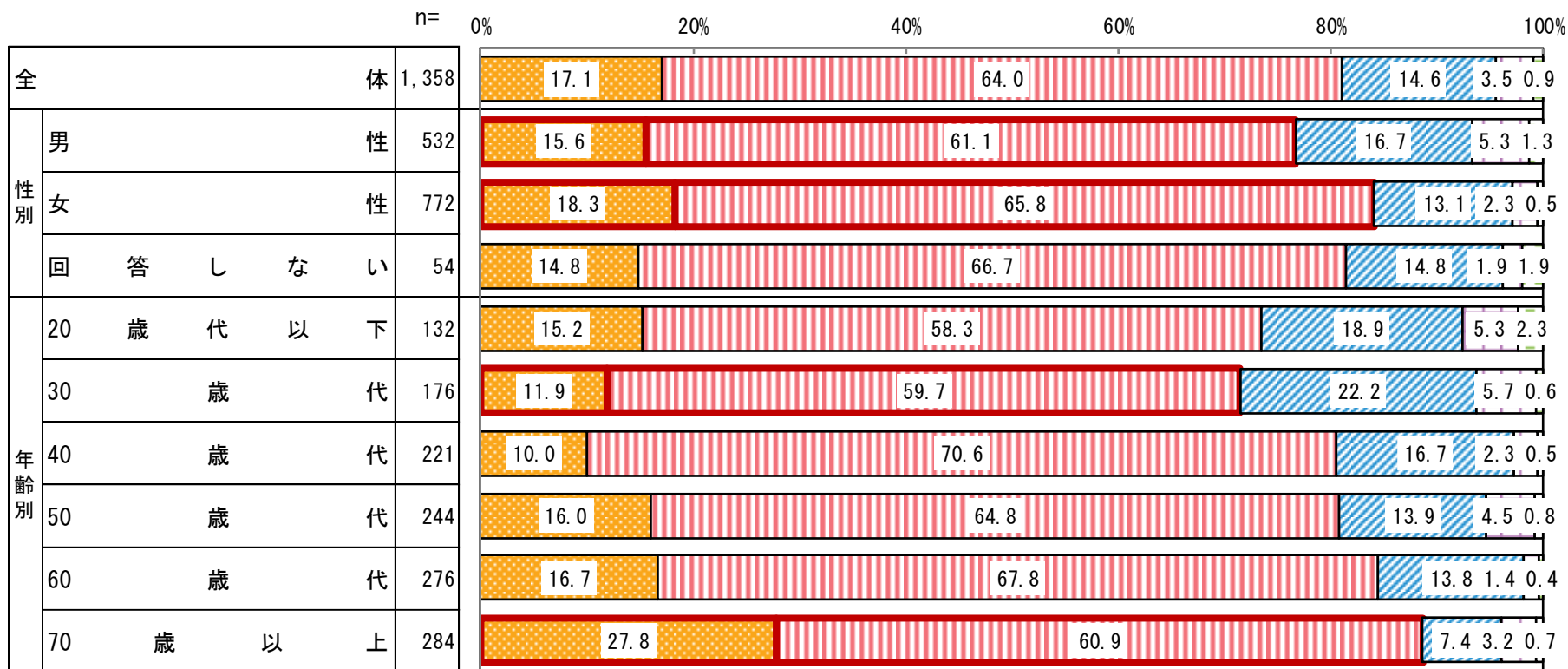


問45 『環境にやさしい行動をしていると思う』性別／年齢別結果

『環境にやさしい行動をしていると思う』市民の割合は、性別では、[男性]（76.7%）、[女性]（84.1%）で[女性]が全体値（81.1%）を上回る結果となっている。

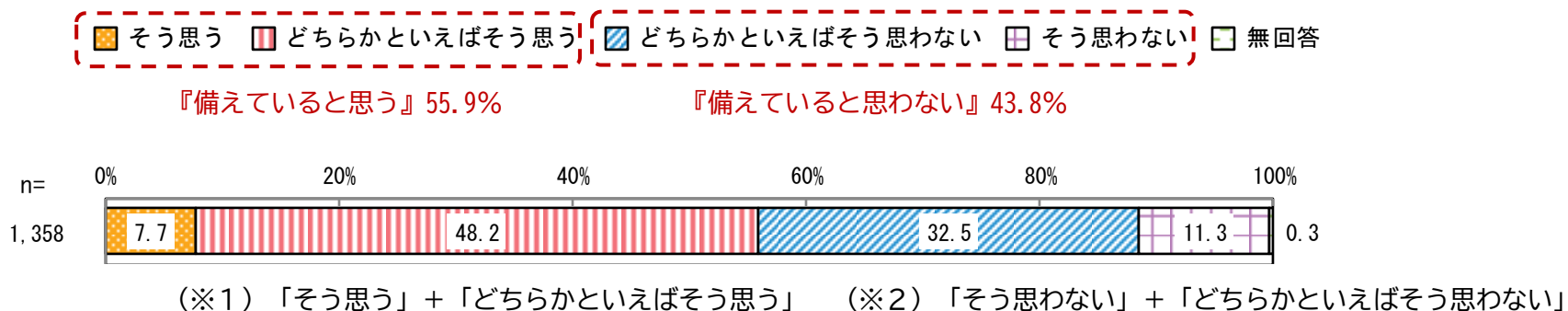
年齢別では、[70歳以上]（88.7%）が最も高く、[30歳代]（71.6%）が最も低い結果となっている。

■ そう思う
■ どちらかといえばそう思う
■ どちらかといえばそう思わない
■ そう思わない
■ 無回答



問48 「日頃から災害に備えている」と思うか（単一回答）

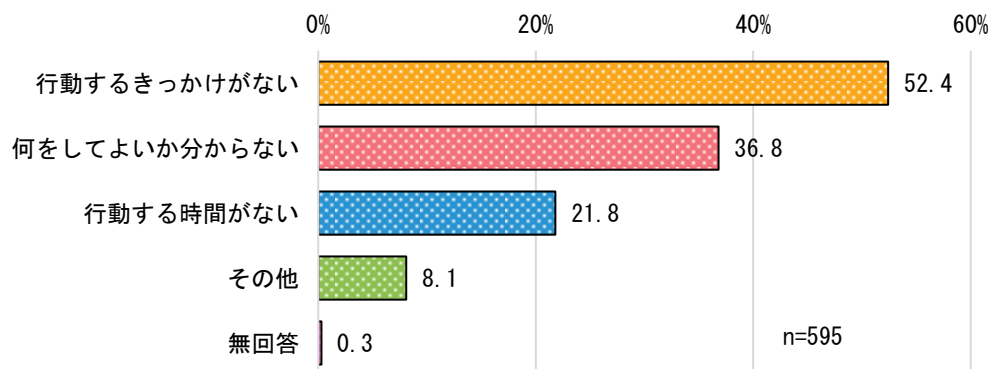
『日頃から災害に備えていると思う』（※1）市民の割合は55.9%で、令和6年度の54.5%より1.4ポイント増加した。
『日頃から災害に備えていると思わない』（※2）市民の割合は43.8%で、令和6年度の45.1%より1.3ポイント減少した。



<問48で「どちらかといえばそう思わない」又は「そう思わない」とお答えの方のみ>

問49 「日頃から災害に備えている」と思わない理由（複数回答）

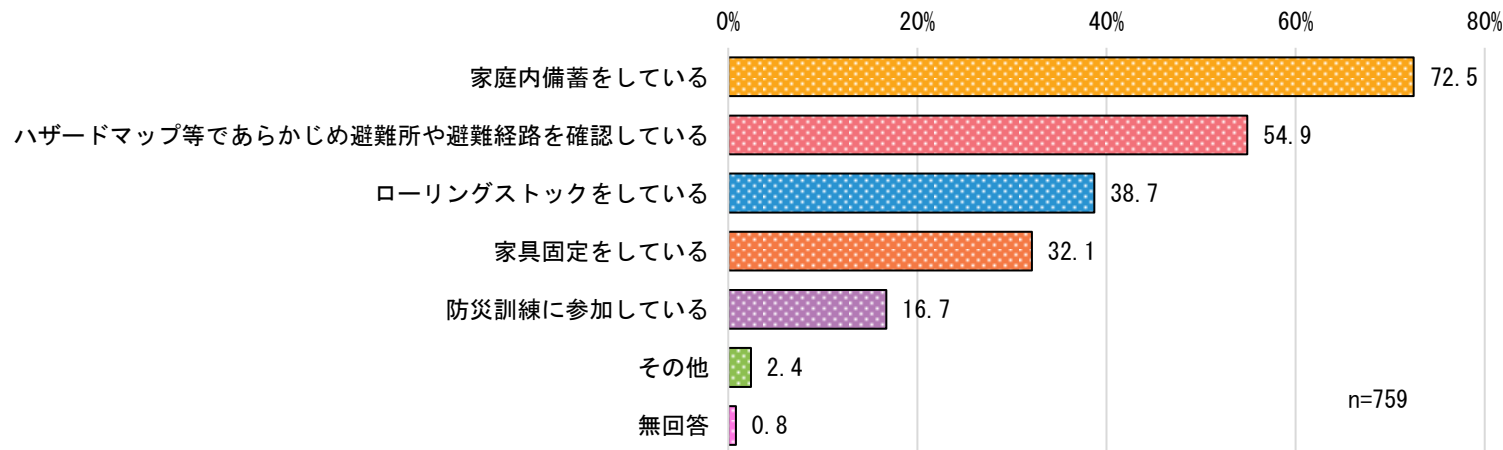
「行動するきっかけがない」が52.4%で最も高く、次いで「何をしてもよいか分からない」（36.8%）、「行動する時間がない」（21.8%）の順となっている。



<問48で「どちらかといえばそう思う」又は「そう思う」とお答えの方のみ>

問50 「日頃から災害に備えている」と思う理由（複数回答）

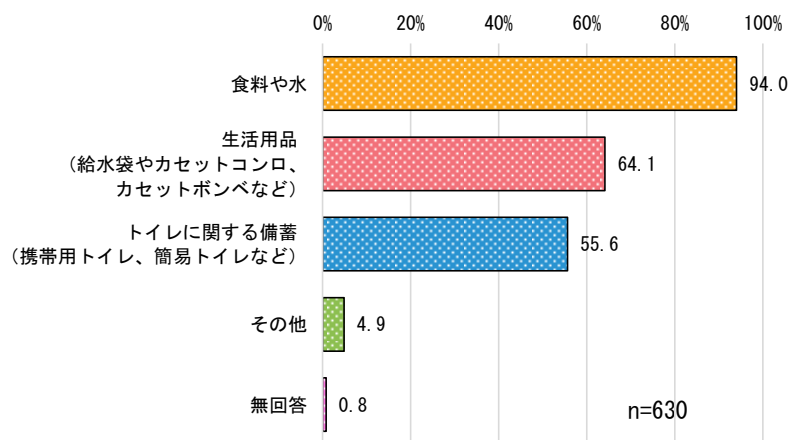
「家庭内備蓄をしている」が72.5%で最も高く、次いで「ハザードマップ等であらかじめ避難所や避難経路を確認している」（54.9%）、「ローリングストックをしている」（38.7%）、「家具固定をしている」（32.1%）の順となっている。



<問50で「家庭内備蓄」又は「ローリングストック」をしているとお答えの方のみ>

問51 「家庭内備蓄」又は「ローリングストック」の内容（複数回答）

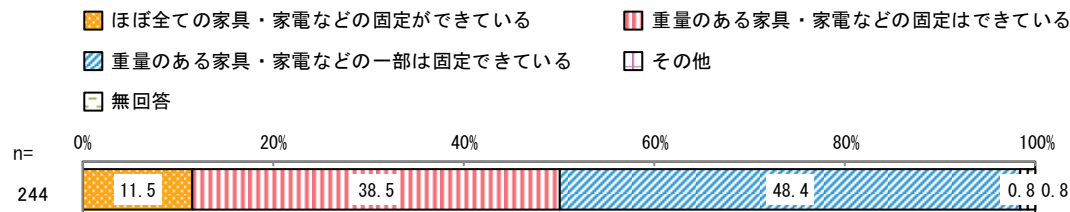
「食料や水」が94.0%で最も高く、次いで「生活用品」（64.1%）、「トイレに関する備蓄」（55.6%）の順となっている。



<問50で「家具固定をしている」とお答えの方のみ>

問52 「家具固定」の内容（単一回答）

「重量のある家具・家電などの一部は固定できている」が48.4%で最も高く、次いで「重量のある家具・家電などの固定はできている」（38.5%）の順となっている。

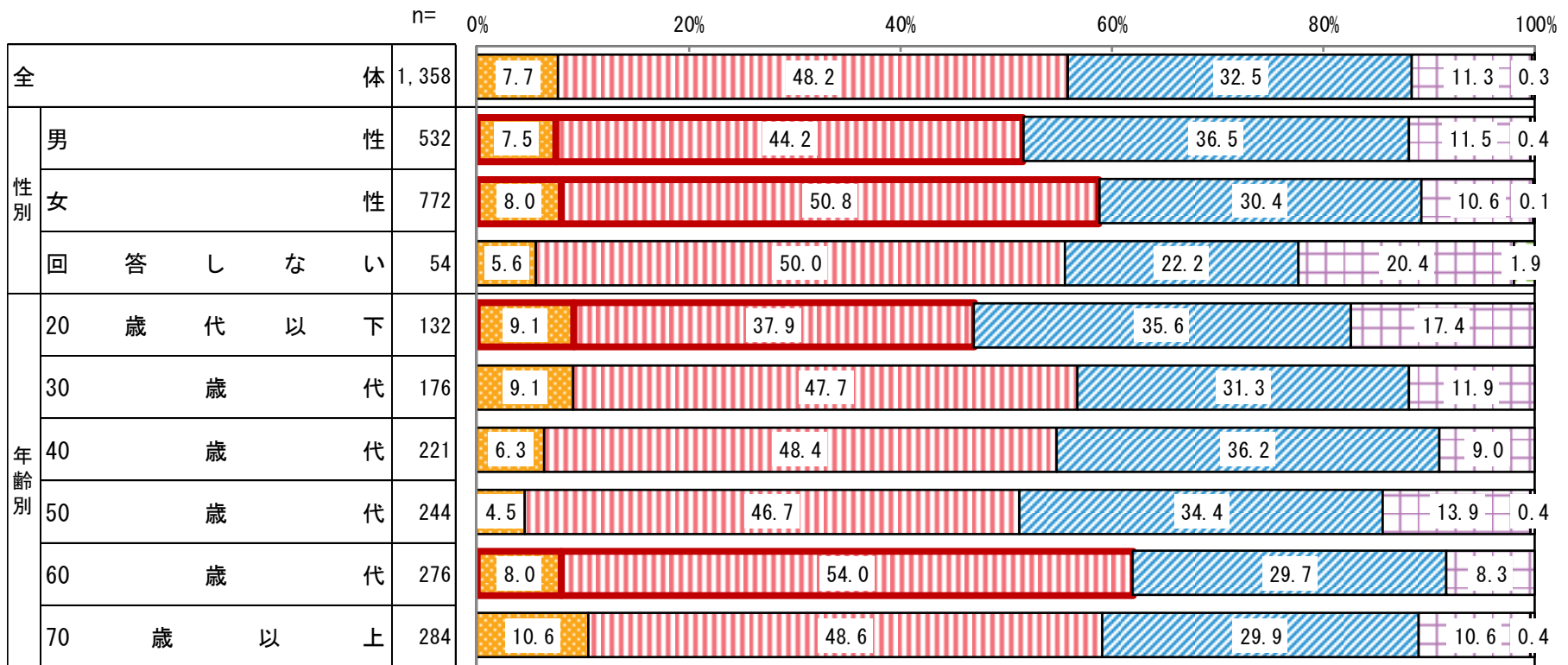


問48 『日頃から災害に備えていると思う』性別／年齢別結果

『日頃から災害に備えていると思う』市民の割合は、性別では、[男性]（51.7%）、[女性]（58.8%）で[女性]が全体値（55.9%）を上回る結果となっている。

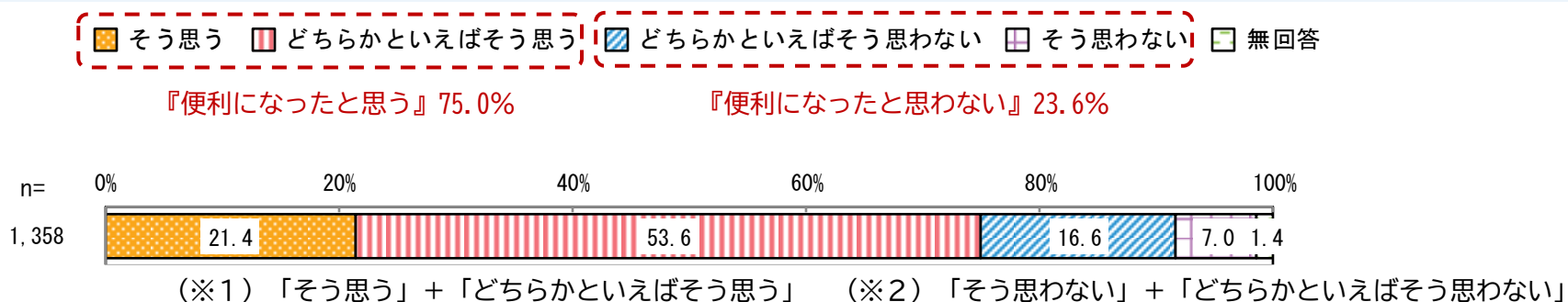
年齢別では、[60歳代]（62.0%）が最も高く、[20歳代以下]（47.0%）が最も低い結果となった。

■ そう思う
■ どちらかといえばそう思う
■ どちらかといえばそう思わない
■ そう思わない
■ 無回答



問53 「デジタル化で生活が便利になった」と思うか（単一回答）

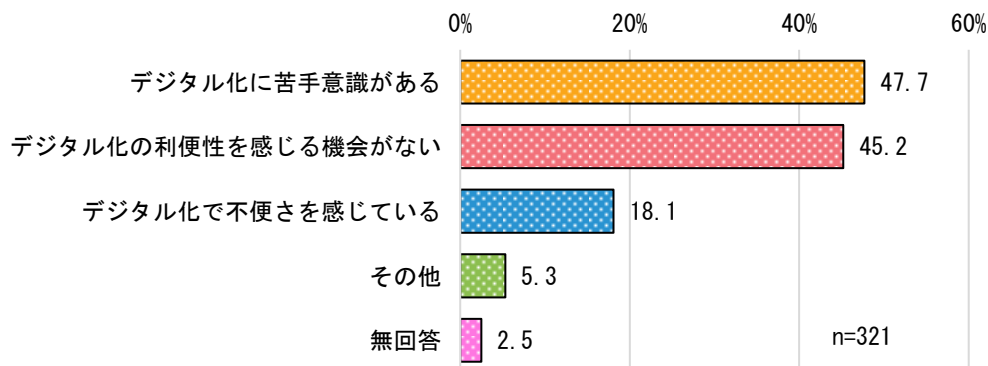
『デジタル化で生活が便利になったと思う』（※1）市民の割合は75.0%で、令和6年度の65.4%より9.6ポイント増加した。
『デジタル化で生活が便利になったと思わない』（※2）市民の割合は23.6%で、令和6年度の33.6%より10.0ポイント減少した。



<問53で「どちらかといえばそう思わない」又は「そう思わない」とお答えの方のみ>

問54 「デジタル化で生活が便利になった」と思わない理由（複数回答）

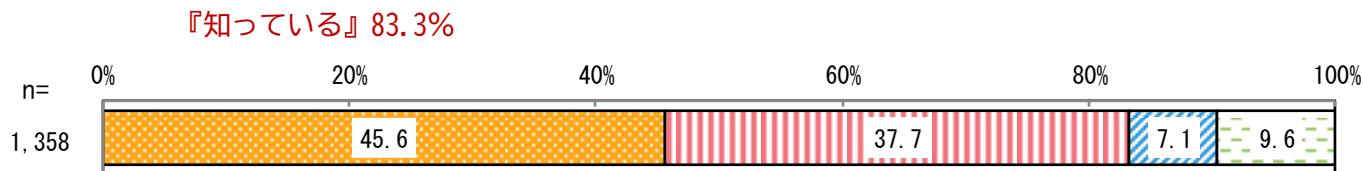
「デジタル化に苦手意識がある」が47.7%で最も高く、次いで「デジタル化の利便性を感じる機会がない」（45.2%）、「デジタル化で不便さを感じている」（18.1%）の順となっている。



問55 SDGsの認知度（単一回答）

『SDGsについて知っている』（※1）市民の割合は83.3%となっている。

■ 内容を含め知っている
■ 内容は分からないが、聞いたことがある
■ 知らない（聞いたこともない）
■ 無回答



（※1）「内容を含め知っている」 + 「内容は分からないが、聞いたことがある」

クロス集計

問53 『デジタル化で生活が便利になったと思う』性別／年齢別結果

『デジタル化で生活が便利になったと思う』市民の割合は、性別では、[男性]（72.5%）、[女性]（77.1%）で[女性]が全体値（75.0%）を上回る結果となっている。

年齢別では、[20歳代以下]（91.6%）が最も高く、[70歳以上]（54.6%）が最も低い結果となった。

■ そう思う
■ どちらかといえばそう思う
■ どちらかといえばそう思わない
■ そう思わない
■ 無回答

